ヌエバ

NUEVA

革新の42枚パネル

日本リーグ唯一の公式試合球

あなたなら、どうたたかう・・・



国際公認球 検定球

42H301WBK
42H201WBK・WR
• 手縫い • 天然皮革 • 42枚パネル

SBHB作戦盤

検定球

HSH1
• 手縫い • 天然皮革 • 1号球

小学校試合球

国際公認球 検定球

42H310WBK • 42H210WBK/WR
• 手縫い • 天然皮革 • 42枚パネル

全国中学校大会試合球

molten®

株式会社 モルテン

東京本社 東京都墨田区横川5丁目5番7号 TEL(03)3625−7581(代)
東京・大阪・名古屋・福岡・広島四国・仙台・札幌・リノUSA・デュッセルドルフG

大きく変わる日本リーグ



日本リーグ運営委員長
山下　泉（常務理事）

先ず挙げられることは、97年度世界男子最優秀選手に輝いたフランスのエース、ストエックリン選手が同僚のヴォーレ選手と一緒に、本田技研鈴鹿に新加入することである。現在の世界最高の左腕といわれている選手であり、熊本大会での大活躍も記憶に新しい。本田のこの大補強で、23回大会の優勝候補のNo.1に躍り出た。

女子も96年の世界最優秀選手であるイズミの林五卿監督兼選手など身近に活躍するプレイが見られるなど、日本リーグのレベルアップが加速して来ている。日本選手もこれらの選手を目標に頑張ってほしいものである。

男子2部は、今年から10チームとなり東西に分かれて戦い、また、東西交流戦をする新しい試みである。現在の状況を考えると、2チーム増加することは大変なことであり、成功に向け、リーグ全体で努力しなくてはならない。一方、女子リーグは各チームとも戦力を強化しており懸案であった12チームによる1リーグ化にむけ、具体的検討にはいった。早ければ24回大会から実施できるであろう。ほとんどの大学優秀プレーヤーがハンドを離れず、リーグに参加するようになっており、その受け皿が拡大できるのは喜ばしい傾向である。

今期より、日本リーグを新しく「日本リーグ運営機構」とし、次の通り組織変更し、運営体制を強化した。

①日本リーグオーナー会議（現行通り）
②日本リーグ部長会議（新設）
③日本リーグ委員会（現行通り）
④日本リーグ運営委員会（9部と6委員会で構成）

日本リーグ部長会議は、重要な案件を協議し、リーグを事業としてどういう方向づけをするか、経営感覚を取り入れた会議とする。

日本リーグがNo.1の大会であると位置づけ、日本協会と連携し、マスコミ対策を強化推進する目的で、副委員長に川上常務理事が新しく就任し、運営主体の稲住副委員長との二本柱で活動する。委員長、副委員長と9つの部長で構成する常任委員会を強化したい。

現在、日本リーグ参加は30チームであるが、チーム間の温度差は相当の乖離があり、必ずしも意識の統一が出来ていない。日本経済は、現在、深刻な不況下にあり、各チームの負担を軽減する為の様々な合理化を推進しながら、どう活性化していくか、課題は多い。最大の目標である、男女のシドニーオリンピック出場実現を目指し、日本リーグの役割は重要である。

第23回大会期間　10年10月1日～11年3月14日

協会だより

平成10年度4月常務理事会

日　時　4月12日(日)　11：00～15：30
場　所　南青山会館　会議室
出席者　中澤副会長、専務理事、常務理事9名、監事1名、事務局2名

1　専務理事所信表明
　市原新専務理事より、意識改革、責任と権限、人材育成と登用・活用について所信表明がなされた。

2　平成10年度各種大会への日本協会役員派遣について
(1)国内大会派遣について
　派遣役員（案）を一部修正の上了承。国体の派遣については、後日検討。10月24日開催予定の全国理事長会議には、全常務理事が出席するよう留意することとした。
(2)国際大会派遣について
　国際主要大会派遣について決定した。世界学生選手権大会については、学連と協議の上決定することとした。アジア大会派遣についてはＪＯＣとの絡みで保留とした。
　その他、必要に応じては、専務理事と打ち合わせ確認をとることとした。

3　国際課題について
(1)'99女子ジュニア世界選手権アジア予選（アジア女子ジュニア選手権）の開催について
　中国からの予選開催辞退があり、日本開催については、シドニーオリンピック予選を開催の条件付きで交渉する。
(2)シドニーオリンピック予選開催地について
　シドニーオリンピック予選を招致する。
(3)2001年東アジア大会(大阪)に関連して
　他競技の活動により、開催種目にハンドボールの採用が難しくなる危険があるため、ＡＦ理事会に働きかけをすることとした。
(4)ＩＨＦ第27回総会派遣について
　渡邊副会長の他、専務理事、国際担当の参加について検討調整することとした。

4　'97女子世界選手権大会の放映について
　'97女子世界選手権大会の放映について、権利関係について交渉。日本協会からの支出について了承。
　放映試合数については、決勝トーナメント20試合、予選ラウンド日本戦5試合、韓国戦1試合の合計26試合を計画、日本リーグ女子監督に解説を依頼する。

5　委員会組織（事業本部制）について
　専務理事より、本部制施行の提案があった。
　日本リーグより、日本リーグ運営機構の中に運営委員会を置く提案があり、了承した。川上常務理事の副委員長就任を了承。
　法務委員会、記録委員会提案に対し、検討する。
　機関誌委員会委員について了承。
　競技用具検定専門委員会、選手登録管理専門委員会の提案に対し、検討する。
　インターネット委員会について日本リーグと共存することで了承。
　登録について、都道府県協会役員、チーム役員、および審判の登録制について、次年度より実施できるよう実施に向け検討。
　審判員日当について、各大会のバランスを考える等、検討。
　強化委員会と日本リーグ、審判との相互活動のため、日本リーグ担当、審判担当常務理事の強化委員会加入を了承。男女強化部会、医科学委員会の機能と委員について報告。
　学校体育ハンドボール検討委員会、ビーチハンドボール委員会について報告。
　広報・企画委員会より、委員について強化、日本リーグより加入、またマスコミ等の外部からの加入を検討している報告。
　財務委員会より、経理担当経験者を新規に加入する報告あり。

6　平成10年度全日本総合スケジュールについて
　日本協会推薦チームについて、8月を目処に決定するスケジュールについて報告。
　開催地決定について、ＴＶ放映、観客動員等を含め、契約書を作ることとし、総務・企画担当で検討することとした。

7　60周年記念誌に関して
　広告協賛者、都道府県等に各1部無償配布し、残りを有償配布することを了承。

8　'98ジャパンカップ開催要項について
　'98ジャパンカップ大会要項を検討。運営組織（実行委員会）について了承。

9　日本協会役員・事務局員のユニフォーム作成について
　式典・事業等開催時に出席する役員のユニフォームを統一するため、ユニフォームを制作する方向で進めることとした。

報告了承事項

1　60周年表彰者について
　日本協会創立60周年記念表彰者確定名簿について了承。

2　強化関連事業について
　全ナショナルチームの選手およびスタッフについて承認。
　男子ナショナルチーム、5月ヨーロッパ遠征のスタッフおよびメンバーについて了承。　日韓スポーツ交流事業について報告、了承。男子ナショナルチーム高知合宿における小・中・高校生対象講習会開催計画の報告。

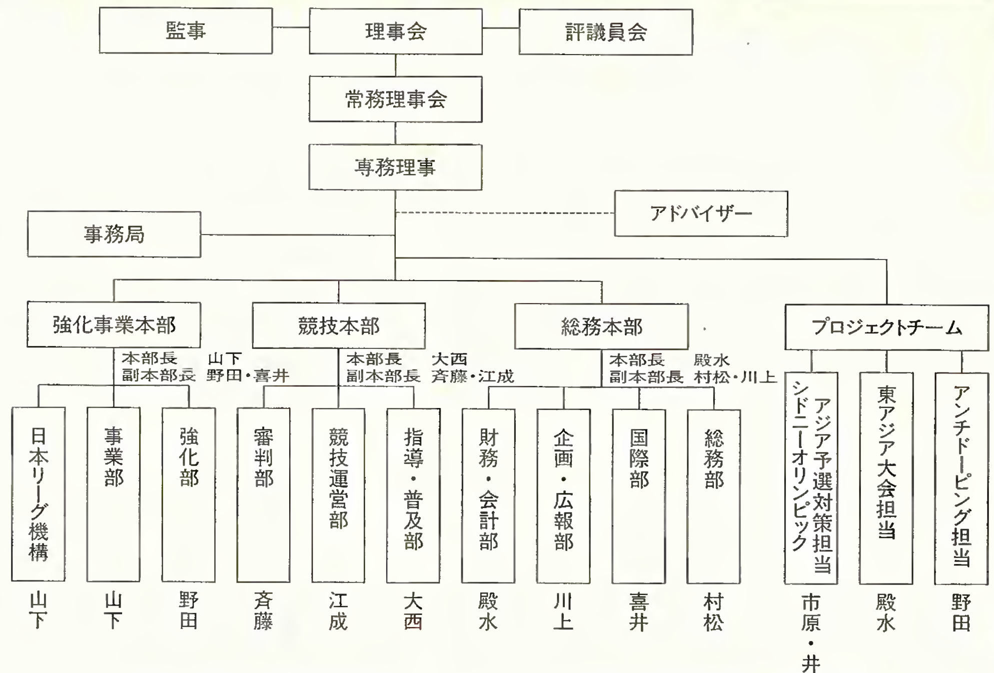
3　第2回学校体育ハンドボール検討委員会報告。

4　日本リーグ大会期間、および参加チーム数、大会方式、試合数について報告。

5　事務局体制強化について報告。

(財)日本ハンドボール協会　新組織

日本協会の事業を円滑に推進するため弦委員会を事業ごとに強化事業本部、競技本部、総務本部の３本部制とし、従来の委員会を部に、３の下部機関として委員会を設置した。また専務理事のアドバイザーとしてプロジェクトチームを設けた。
委員会は下記の通りで、編成しだい次号で報告する。



■指導委員会
大西　武三（筑波大学）
村松　　誠（駒沢大学）
高橋　英次（福生市教育委員会）
浅野　鉦世（武蔵工業大学）
笹倉　清則（日本女子体育大学）
小山　　浩（筑波大付属中）
芝　　重春（自衛隊体育学校第1教育課）
飯田　信行（㈱シャコ・インターナショナル東京）
上林　正明（県立百合丘高等学校）
蓬郷　尚代

■学校体育ハンドボール検討委員会
佐藤　　靖（秋田大学）
大西　武三（筑波大学）
角舷　　昭（市立東山小学校）
高田日呂美（都立駒場高校）
土井　秀和（大阪教育大学）
佐藤　勝弘（新潟大学）

■日本リーグ委員会
山下　　泉（ゼネラル興産㈱）
市原　則之（湧永製薬㈱）
殿水　幸雄（㈱アプラス）
野田　　清（大同特殊鋼㈱）
川上　憲太（㈱間組）
石井　　勝（本田技研工業㈱）
近森　克彦（㈱三陽商会）
加藤　広樹（(財) 中部空港調査会）
蒲生　晴明（大同特殊鋼㈱）
緒方　嗣雄（㈱大和銀行）
西山　　清（日新製鋼㈱）
稲住　晋二（トヨタ車体㈱）

■強化委員会
野田　　清（大同特殊鋼㈱）
山下　　泉（ゼネラル興産㈱）
齊藤　　実（吉田高校）
津川　　昭（湧永製薬㈱）
福地　賢介（国際経済調査㈱）
蒲生　晴明（大同特殊鋼㈱）
松井　幸嗣（日本体育大学）
高橋　精一（桃山学院高校）
東根　明人（順天堂大学）
緒方　嗣雄（㈱大和銀行）
伊藤　宏幸（㈱日立栃木冷熱事業部）
樫塚　正一（武庫川女子大学）
水上　　一（筑波大学）
井上　亮一（夙川学院高校）
佐々木英明（市立上中学校）
西山　逸成（日本体育大学）

■医科学委員会
西山　逸成（日本体育大学）
森田　俊介（山口大学）
竹内　正雄（星薬科大学）
田中　　守（福岡大学）
武田　　徹（中京大学）
高橋　勝美（神奈川工科大学）
阿部徳之助（自治医科大学）
千葉　裕典（八潮クリニック）
濱脇　　純（濱脇整形外科病院）
河野　卓也（横須賀共済病院）
加藤　　公（鈴鹿回生総合病院）
坂口　　満（熊本整形外科病院）
沖本　信和（濱脇整形外科病院）
坂本　静男（順天堂浦安病院）
杉山　義祥（杉山歯科病院）

■機関誌編集委員会
村松　　誠（駒沢大学）
羽田　裕一（JUKI㈱）
北村　善夫（中央高校）
佐藤　和孝（東大附高）
南木　雅弘（百合丘高校）

■審判委員会
斉藤　　実（県立吉田高校）
狩野　幸介（明石保健センター）
加藤　雅之
藤本　　昇
福田　英明（福岡歯科大学）
矢沢　達司（県立並木高校）
中本　成基（県立江田島高校）
川島　克之（県立知立東高校）
倉本　紘一（石狩南高校）
小友　正人（盛岡第二高校）
上久保重次（伊奈学園総合高校）
中山　光広（有磯高校）
板倉　孝雄（横須賀高校）
北山　　隆（滝川高校）
古富　　博（下関西高校）
松原　久士（新田高校）
森山　正治（福岡高校）

■連盟審判長
喜井　美雄（本田技研ドームブロック）
島崎　政治（豊島高校）
佐野　和夫
市瀬　公敬（甲府東高校）
溝口　博一（左京山中学校）

■競技規則研究委員会
後藤　　登
清水　宣雄（国際武道大学）
岸本　光夫（京都第一赤十字病院検査部）
江成　元伸（昭和薬科大学体育研究室）
北村　善夫（中央高校）
南木　雅弘（百合丘高校）
初鹿野　仁（都留高校）

■国際委員会
斉藤　　実（県立吉田高校）
浜田　浩和（晴海総合高校）
喜井　美雄（本田技研ドームブロック）
南木　雅弘（百合丘高校）

■総務委員会
花野　誠一（昭和薬科大学体育研究室）
兼田　佳博（㈱アルファブレイン）
井田　一博（自衛隊体育学校）
北村　善夫（中央高校）

男女ナショナルチーム強化体制について

常務理事会

日本ハンドボール協会　強化担当常務理事が、統括管理する。

スポーツ医科学委員会

強化委員会
男子部会　女子部会

強化委員会・スポーツ医科学委員会は、別途定める規定により運営する。

ナショナルチーム
ドクター・トレーナー　監督
コーチ　コーチ　コーチ
選手

●ナショナルチームは、日本代表チームとして、オリンピック・世界選手権・アジア大会・アジア選手権・国際大会などに出場する。
●監督・コーチについては、強化委員会の推薦をもとに常務理事会が承認する。
●ナショナルチームには、UNDER-23スタッフの中から1名を配置し指導統一を図る。

UNDER-23
ドクター・トレーナー　監督
コーチ　コーチ　コーチ
選手

●UNDER-23は、ナショナルチームの予備軍として、世界学生選手権・各種国際大会に出場し、国際経験を積む中で強化する。
●監督・コーチについては、強化委員会の推薦をもとに常務理事会が承認する。
●UNDER-23コーチには、UNDER-19スタッフの中から1名を配置し指導統一を図る。

UNDER-19
ドクター・トレーナー　監督
コーチ　コーチ　コーチ
選手

●UNDER-19は、ナショナルチームの予備軍として、世界ジュニア選手権・アジアジュニア選手権等、各種国際大会に出場し、国際経験を積む中で強化する。
●監督・コーチについては、強化委員会の推薦をもとに常務理事会が承認する。
●UNDER-19コーチには、UNDER-16スタッフの中から1名を配置し指導統一を図る。

UNDER-16
ドクター・トレーナー　監督
コーチ　コーチ　コーチ
選手

●UNDER-16は、将来のナショナルチームの予備軍として、各種国際大会に出場し、国際経験を積みながら強化する。
●監督・コーチについては、強化委員会の推薦をもとに常務理事会が承認する。
●UNDER-16コーチには、UNDER-23～19スタッフの中から1名を配置し指導統一を図る。

ナショナルチーム情報

[98年ナショナルチーム関係スタッフ]

前号で98年度の男女ナショナルチームのメンバーは発表いたしましたが、ここにコーチングスタッフを紹介いたします。

■全日本男子

監　督　蒲生　晴明（日本ハンドボール協会）
コーチ　酒巻　清治（湧永製薬）
　〃　　スタニスラフ・コワルスキー（スウェーデン）

（基本方針）
M² S²
MAKE MAJOR SOMETHING SPECIAL

心→挑
何事にも、競争心を持って挑戦する。

技→巧
誰にも負けない個有技術を持つ。

体→強
総合的な体力を最低３％アップする。

（目標）
アジア大会優勝金メダル
99年世界選手権大会出場権獲得

（重点施策）
①基礎体力の向上
・体格の向上（平均体重90kg維持）
：全日本及び各チームでの食事の管理強化
・筋パワーの向上（バルクアップ・スプリント・ジャンプ３％以上目標）
：全日本及び各チームでの体力TRの管理強化
・ゲーム後半のスタミナ養成：速攻TRとコンタクトプレーの反復
②戦術
・基本戦術の精度アップ・戦術のバリエーション増
・速攻のT/P/Mの精度アップ
③技術
・個人シュート技術の開発・シュート確率の向上・イージーミスの削減

■全日本女子

監　督　伊藤　宏幸（日立製作所）
コーチ　黄　　慶泳（日本ハンドボール協会）
　〃　　荷川取義浩（北国銀行）

（基本方針）
シドニーオリンピック出場権の獲得を基本に置き、選手強化及び戦術・法を確立する為の施策を推進する。

（目標）
アジア大会銀メダル
99年世界選手権大会出場権獲得

（重点施策）
①基礎体力の向上
②基礎技術力の向上
③個有技術の向上
得点、DF能力アップ
④戦術
速攻バランスパターンの確立。
韓国コーチ起用により抜本的な見直しを行いレベルアップを図る。

■男子U-23

総監督　松井　幸嗣（日本体育大学）
監　督　松　喜美夫（函館大学）
コーチ　玉村　健次（湧永製薬）
　〃　　田村　修治（東海大学）

（基本方針）
アジア・ヨーロッパで通用する可能性を秘めた選手を発掘しジュニア・ナショナルと連携をとりながらチームのレベルアップを図る。

（目標）
第15回世界学生選手権大会にて前回以上の成績及びナショナル選手発掘のためチームの強化を図る。

（重点施策）
国際試合、海外遠征、合宿を通してDF、OF速攻について課題目標をもってチーム及び個人に対して徹底的に強化をする。

■女子U-23

監　督　水上　　一（筑波大学）
コーチ　池ノ上孝司（ソニー国分）
　〃　　池田　　修（福岡教育大学）
　〃　　笹倉　清則（日本女子体育大学）

（基本方針）
女子ナショナルチームの次の世代を担う学生、若手実業団選手の強化を図ることで層の厚いナショナル選手群を育成する。

（目標）
今年はＵ－23の主体となる学生達の第３回世界女子学生選手権大会で６位入賞を目指して強化を展開する。

（重点施策）
上記大会６位入賞を目指して国内合宿、海外遠征を実施する。国内合宿、海外遠征で対外国人対策のトレーニングを実施、戦術の徹底をする。

■男子U-19

監　督　高橋　精一（桃山学院高校）
コーチ　松　喜美夫（函館大学）
　〃　　玉村　健次（湧永製薬）

（基本方針）
世界に通用する可能性を秘めた選手を発掘し「ナショナルチームの一員」ということを意識させ技術面の強化並びに生活姿勢の転換等精神面の高揚を計る。

（目標）
①世界に通用する選手発掘及び育成。
②第6回アジアJr選手権大会優勝し次年度開催の第12回世界Jr選手権大会へ出場。

（重点施策）
①世界に通用する可能性を秘めた選手の発掘。身長１８５ｃｍ以上
②第６回アジアJr選手権出場
合宿・海外遠征を実施強化をする。

■女子U-19

監　督　井上　亮一（夙川学院高校）
コーチ　池本　　聡（ジャスコ）
　〃　　平賀　達也（暁高校）

（基本方針）
本年実施の第５回アジアJr選手権など国際試合等、次年度に向けて経験を積み次年度の第12回世界Jr選手権に臨む。
またナショナルとの連携を取りながらナショナル選手の発掘・育成に力を注ぐ。

（目標）
代表選手として技術向上に努めながら強化
練習・海外遠征の中で精神面も含む強化と育成を図る。
Jr世界選手権大会への出場。

（重点施策）
①ナショナル選手としてトップレベルのプレーを体験する事を目的に強化する。
②中体連・高体連・ナショナルとの連携をナショナル選手につなげる。

[全日本女子チーム欧州遠征スケジュール]

全日本女子チームは5月26日から6月26日までの1か月間、欧州遠征を行います。この間、チェコ、オーストリア、スロバキア、ハンガリーの4か国で親善試合を行います。

■日程

5月26日　成田出発　チェコ着
27日　親善試合（クラブチーム）
29日　親善試合（チェコジュニアチーム）
30日　親善試合（チェコジュニアチーム）
31日　移動
6月2日　親善試合（クラブチーム）
4日　親善試合（プラハ選抜）
5日　移動
6日　親善試合（クラブチーム）
7日　親善試合（クラブチーム）
10日　オーストリアへ
親善試合（クラブチーム）
スロバキアへ
12日　親善試合（クラブチーム）
15日　親善試合（クラブチーム）
16日　親善試合（クラブチーム）
17日　移動
18日　親善試合（クラブチーム）
22日　親善試合（クラブチーム）
24日　ハンガリーへ
親善試合（クラブチーム）
26日　帰国

＊遠征メンバーは別表の通りです。

全日本女子欧州遠征名簿

団　長	緒方　嗣雄　おがたつぐお	1946.11.19	(株)大和銀行
監　督	伊藤　宏幸　いとう　ひろゆき	1951.12.1	(株)日立製作所冷熱事業部
コーチ	黄　慶泳　ふぁん　きょんよん	1969.2.28	(財)日本ハンドボール協会
コーチ	荷川取義浩　にかわどり　よしひろ	1961.12.4	(株)北国銀行
トレーナー	吉田　奈央　よしだ　なお		ジャスコ(株)

選手	氏名	ふりがな	所属先名	生年月日	身長	体重	出身高校	出身大学	出身地
GK	沖園　美穂	おきぞの　みほ	北国銀行	1974.7.8	167	62	福井商高	—	福井県
	山口　文子	やまぐち　あやこ	オムロン	1975.10.22	173	67	境高校	—	鳥取県
CP	山下美智子	やました　みちこ	大和銀行	1976.1.5	177	68	宣真高校	—	熊本県
	青戸あかね	あおと　あかね	イズミ	1974.7.11	164	62	山陽女高	東女体	広島県
	広瀬　輝美	ひろせ　てるみ	〃	1975.8.11	166	58	本庄高校	福岡大	宮崎県
	小林　直美	こばやし　なおみ	香川銀行	1973.9.12	163	53	九州女高	福岡大	福岡県
	熊谷　祐子	くまがい　ゆうこ	シャトレーゼ	1976.2.20	165	59	大曲農高	—	秋田県
	池田奈美子	いけだ　なみこ	ジャスコ	1975.11.12	163	60	小松商高	—	石川県
	松永恵美子	まつなが　えみこ	〃	1977.1.22	164	59	小松商高	—	石川県
	田中美音子	たなか　みねこ	大和銀行	1975.1.14	160	55	四天王寺高	—	大阪府
	倉知　光子	くらち　みつこ	〃	1975.11.12	167	58	宣真高校	東女体	大阪府
	藤浦　美絵	ふじうら　みえ	〃	1975.12.19	171	70	夙川学院高	—	兵庫県
	山崎　理恵	やまざき　りえ	立山アルミ	1977.11.4	157	57	福島女高	—	大阪府
	松本　恵美	まつもと　えみ	日立栃木	1973.7.6	172	70	国学院栃木	—	栃木県
	沖土居真子	おきどい　まさこ	〃	1971.6.19	155	48	春日井高	日体大	愛知県
	小松真理子	こまつ　まりこ	北国銀行	1974.11.30	155	55	小松商高	—	石川県
	田中由美子	たなか　ゆみこ	〃	1975.7.25	176	68	〃	—	石川県
	中村　友美	なかむら　ともみ	〃	1977.6.23	168	60	福井商高	—	福井県

日本ハンドボール協会創立60周年記念表彰者、50周年以降創立60周年まで(10年間)

（表彰状贈呈候補者推薦者　都道府県・連盟分）

青森	福士　義昭	滋賀	寺村　新悦
宮城	高橋　善幸	大阪	東　嘉伸
山形	大沼　央	兵庫	三浦　和夫
福島	柳沼　正義	奈良	中畑　明郎
茨城	鈴木　均	岡山	近藤　正次
群馬	伊崎　克巳	広島	槙岡　辰男
埼玉	上久保重次	山口	白井　謙次
千葉	三井　信	福岡	篠崎　省吾
東京	佐野　和夫	佐賀	水田　正文
神奈川	河田　英彦	長崎	石井　通義
山梨	冨田　佳行	熊本	與縄　義昭
長野	春原　紘一	大分	富松　秋實
石川	寺垣　俊彦	鹿児島	西花　丈雄
静岡	川崎　弘	教職員	金子　永治
愛知	梅村　忠雄	学連	内海　倫
三重	喜井　美雄	中体連	西川　勤也
岐阜	浅野　清		

（財）日本ハンドボール協会歴任元役職者名簿

常松　喬	植村　繁
植村　肇	須藤　健児
安藤　純光	吉田　定静
盛田　正明	梅田　幹夫
塩川　安賢	尾高　義彦
滝口　三郎	村井　輝邦
川上　整司	森　豊夫
北川　勇喜	恩田　健一
阿部徳之助	加藤　岳郎
西村　亮治	浅野　克彦
光島　磯雄	吉田　博二
中村　崇	楠戸　榛也
竹野　秀輝	藤原　侑
中根　武彦	住尾　勉
河本　武夫	大矢　三郎
松本　重雄	中川　敏文
都野　雄二	関口　雄康

（財）日本ハンドボール協会創立60周年＜記念誌＞

このほど日本ハンドボール協会創立60周年記念誌が刊行されました。この記念誌は日本ハンドボール史（日本協会創立50周年史）に続く、この10年間の記録を中心に纏められました。また、今後のハンドボール界発展について、日本リーグ委員長、男女ナショナルチーム監督などにご寄稿いただき、シドニーオリンピック、21世紀に向かっての発展について語っていただきました。さらに、50年史編集委員会からは、50年史に纏められなかった日本ハンドボール界の史実を追加編集いただき、一部50年史の続編としての内容も盛り込まれています。

なお、この記念誌は、全国都道府県協会、ならびに各全国連盟の会長副会長の皆様を始め、日本リーグチーム、ハンドボール用具業者の皆様の絶大なるご協力の賜としてここに完成を見ることができました。ご協力に紙面をおかりいたしまして厚く御礼申し上げるとともに、今後のご健勝ご発展を祈念いたします。

（財）日本ハンドボール協会創立60周年記念誌
上製本箱入り
総ページ数　260ページ

都道府県協会、各全国連盟には各一部贈呈を致しますが、一般読者の皆様にも、この記念誌を下記要領にて頒布いたします。
頒布価格　5000円（送料・消費税1000円）
申し込み　FAXまたは郵送で日本協会までお申し込み下さい。
TEL 03-3481-2361　FAX 03-3481-2367

高松宮杯第39回全日本実業団ハンドボール選手権大会（男子の部）

大会を振りかえって

大阪ハンドボール協会副会長　吉澤　力男

高松宮杯第39回全日本実業団ハンドボール選手権大会・男子の部が、大阪府守口市民体育館で、日本の実業団ハンドボール界の最高峰12チームにより覇権が競われた。

この大会は、平成10年度のハンドボール界トップチームの戦力を占ううえで重要な大会である。各チームともに有力新人を加え、昨年度の成績を白紙にもどし、新しいチーム編成で試合にのぞむ大会である。この年度始めの重要な大会を盛り上げる為、日本ハンドボール協会並びに全日本実業団ハンドボール連盟のご尽力で、国際ハンドボール連盟A級審判であるHyung Kyun Chung及びYoung Chul Lim　の両氏を韓国から招待し、その高度な審判技術を披露していただくことになった。

ハンドボール界も例外ではなく、ここ数年来外国選手を補強するチームが増えてきた。本年も韓国選手を中心にヨーロッパからも補強された。昨年一年間の活躍ですっかり日本のプレーに慣れ、チームにとけこんでいる湧永製薬のプラマニス・リホ・ブルーノ選手、エストニアのナショナル選手で国際試合を56回経験している大ベテラン。また、本田技研は、本年からロシア出身で国際試合を21回経験しているセルゲイ・ジザ選手を補強しチームの強化を図った。

さて、試合の状況であるが、全日本実業団ハンドボール・チャレンジ98を勝ち抜いた三景、本田技研熊本、アラコ九州、昨年本大会9位のデンソーの日本リーグ二部勢は、本年も上位の壁をくずすことはできなかったが、なかなかの善戦ぶりをハンドボールファンの前に披露した。本年度、日本リーグ一部昇格をはたしたトヨタ車体は、若さあふれるプレーで、日新製鋼にせり勝ち堂々と6位にくいこんだ。今後、二部リーグ勢からトヨタ車体に続くチームの登場が間近になった感があり大いに期待される。

本年も3日目の準決勝に勝ち残ったのは、昨年同様、中村荷役、湧永製薬、大同特殊鋼、本田技研の4チームとなった。

●準決勝

準決勝2試合ともに、1点を争う好ゲームで場内を沸かし、ハンドボールファンを十分魅了し、満足させる内容であった。最終日の優勝戦は、古豪、湧永製薬対若さでチームを一新した本題技研の興味ある対戦となった。

●優勝戦

本大会は、湧永製薬の5年ぶり11回目で幕を閉じたが、湧永製薬、本題技研ともに和解選手の活躍が目立った。また、各チームの外国補強選手も期待通りの活躍であった。特別招待した韓国レフェリーであるが、守口市民体育館に集まったファンの前に、①細かいプレーを絶対見逃さない、②試合の流れをできるだけ止めず、個々の判定に納得性がある、③ペアの呼吸がピッタリ合っており、笛、ジェスチャーが明確でわかりやすい等その華麗な審判技術でファンにアピールするものが多かった。日本の審判団も大いに学ぶところが多かったと思われる。

【準決勝】

本田技研20（11－8
9－10）18中村荷役

本田の一線デフェンスに対し、中村は、一、二、三デフェンスで試合は始まる。立ち上がり本田は、中村のシュートミスにつけ込み、セルゲイ、佐々木の速攻、ミドル等で4点を連取し、絶好のスタートをきる。しかし、中村も中盤からようやく攻守のリズムをつかみ、西村、野村の連続得点で2点差にせまるが、広政、佐々木、セルゲイの連続得点でまたもや差を開かれる。ここで根性の中村、八尾、西村の3連続得点で27分2点差まで追い上げ、試合はがぜん盛り上がり、本田3点リードで後半に入る。

後半、両チームともに激しい攻防の中、高度なテクニックを随所で披露し準決勝にふさわしい好ゲームとなる。本田は、堅いデフェンスで中村の追い上げを許さず4点リードで終盤10分に入る。必死で追撃する中村は、野村のカットイン、西村の速攻で22分、2点差まで追いつき、場内を沸かせる接戦に持ち込む。

残り6分、中村は泉、八尾のシュートで必死に食い下がるが、ここ一番の大事なところで7mスローの反則を繰り返し、それをすべて広政に決められ、どうしても2点差を縮めることができず、無念の敗退を喫した。

本田の勝因は、中村のオフェンスを制したデフェンス陣の頑張りと前半立ち上がりの猛攻にあった。

[中村荷役] 番号	氏名	得点	[本田技研] 得点	氏名	番号
1	林田	0	3	佐々木	4
2	木浪	2	2	斉藤	7
3	西村英	3	3	加藤	8
4	天間	0	0	笹浪	9
6	泉	1	8	広政	10
7	八尾	4	0	平松	11
10	阿部	0	0	橋本	12
14	林	0	0	中里	15
16	細川	0	0	四方	16
17	西村雅	1	0	日原	17
18	野村	7	1	池辺	18
19	宇佐美	0	0	羽賀	19
			3	セルゲイ	20
	計	18	20	計	

中村荷役　木浪選手のミドルシュート



【準決勝】

湧永製薬20（10－10
10－8）18大同特殊鋼

この試合は、大同の韓国・朴、

番号	氏名	得点	得点	氏名	番号
[湧永製薬]			[大同特殊鋼]		
1	多田	0	0	秋吉	1
2	森山	0	0	佐藤	2
4	田場	5	6	朴	3
6	山口	3	3	冨本	4
8	ブラマニス	6	0	植木	6
10	松谷	0	0	市原	7
11	高田	0	2	藤井	8
12	坪根	0	3	林	9
13	小沢	1	3	末岡	10
14	田中	0	0	日原	12
15	杉山	0	0	柴田	14
17	浜本	5	0	松本	15
18	加川	0	0	中谷	17
			1	南川	18
	計	20	18	計	

林のコンビ、これに冨本、末岡のオフェンスを湧永のデフェンス陣がどう対抗するかに興味があった。

試合は両チームともに一線デフェンスをとり、立ち上がりから激しい攻防、見どころの多い熱戦となった。中盤まで両チーム譲らず、一進一退同点ですすみ、大同は湧永のシュートミスをつき、冨本、藤井等の連続シュートで均衡をやぶり4点差をつける。しかし、湧永は22分、GK坪根の好キープもあり、エース・ブラマニスのロング、浜本の7mスロー等で、1点差まで追い込み、終了間際、杉山のうまいポストプレーで7mスローのチャンスを得、これを小沢が決め同点とし（10対10）、両チーム譲らず後半へ入る。

後半に入り、両チームますます激しい攻防のなか、一進一退を繰り返し、実業団選手権史上まれにみる好試合となる。12分、大同15対14で1点リード、湧永すかさずブラマニスのロングで同点、しかし、大同・朴のロングでリードするが、湧永・浜本の7mスローで同点とする。この間5分間全く目を離せない攻防が繰り返される。18分、大同・朴のロングで1点リードするが、湧永の森山、田場のすばらしいコンビネーションプレーで連続得点し、20分、湧永はこの試合初めてリードを奪う。すかさず大同・朴のロングで同点とし、残り試合時間8分となる。両チームともに息のつまる熱戦の中、高度な技術の応酬となり、見ごたえのあるプレーを随所に展開する。ここでぬけ出したのは湧永のエース・ブラマニスのロングであり、新人田場のミドルで27分2点差とし、終盤の大同の必死の攻撃を見事なデフェンスでしのぎ、この大接戦に終止符をうった。

終盤29分、あまりにハッスルプレーがこうじ、朴、田場のダブル退場という場面があった。



本田技研　中里選手のシュート

【決勝】

湧永製薬26（13－12 13－8）20本田技研

番号	氏名	得点	得点	氏名	番号
[本田技研]			[湧永製薬]		
4	佐々木	4	0	多田	1
7	斉藤	3	7	森山	2
8	加藤	4	3	田場	4
9	笹浪	0	1	山口	6
10	広政	4	13	ブラマニス	8
11	平松	0	0	松谷	10
12	橋本	0	0	高田	11
15	中里	1	0	坪根	12
16	四方	0	0	小沢	13
17	日原	0	0	田中	14
18	池辺	1	1	杉山	15
19	羽賀	0	1	浜本	17
20	セルゲイ	3	0	加川	18
	計	20	26	計	

立ち上がり、本田・斉藤の速攻に対し、湧永も森山、浜本のミドルで両チームともに順調なスベリ出しをみせる。決勝戦ともなれば、両チームともにエースの活躍に期待がかかるが、湧永・ブラマニス、本田・セルゲイともに積極的なシュートを披露する。

試合は前半8分、湧永・新人田場のロングで5対3と2点のリード、これに対し本田も斉藤のロングで対抗するが、12分にはブラマニスのロングで3点差まで開く。しかし本田も佐々木のミドル、セルゲイのロングで19分には同点とし、試合をふりだしにもどす。前半の終盤、湧永は森山、ブラマニスの連続得点で13対12とし、1点差で後半に入る。

後半立ち上がり、湧永はブラマニス、森山の連続得点で3点差をつける順調な立ち上がりをみせる。これに対し、本田も広政、加藤のミドル等で反撃し、15分には18対18の同点とし、残り12分の勝負にもち込む。

同点に追い込まれた湧永は、エース・ブラマニスの強引と思われるシュートがことごとく決まり、19分には3点差とし、本田のオフェンスの乱れをついた速攻で、23分には4点差とし、終盤にかけ試合を有利にすすめる。一方、本田もこの大事なビッグゲーム、このままでは引き下がらない。セルゲイのロングで3点差にせまり、27分にはダブルマンツーマン・デフェンスをとり勝負に出るが、田場にミドル、ブラマニスにロングを決められ勝負は決した。

湧永の勝因は、本田のオフェンスを最小得点に制したGK坪根を中心とした堅いデフェンスと、13得点したブラマニスの勝負どころでことごとくシュートを決めた活躍と、小兵・森山の絶妙きわまるフェイントからのミドル、カットイン（7得点）、また新人田場（3得点）の活躍があげられる。惜しくも敗れたとはいえ、本田はGK四方を中心に若い素質のある新人、セルゲイ（ロシア）の華麗なプレー等魅力あふれるチームで、これからのシーズンが楽しみである。

高松宮杯第39回全日本実業団ハンドボール選手権大会
男子の部トーナメント勝敗表

5月 1日(金) 1回戦	2日(土) 2回戦	3日(日) 準決勝	4日(月) 決勝

中村荷役(東京)
アラコ九州(佐賀)
大崎電気(埼玉)
日新製鋼(広島)
デンソー(愛知)
本田技研(三重)
大同特殊鋼(愛知)
本田技研熊本(熊本)
三陽商会(東京)
トヨタ車体(愛知)
三景(東京)
湧永製薬(広島)

回戦	対戦	スコア
1回戦	アラコ九州 − 大崎電気	22 − 37
1回戦	日新製鋼 − デンソー	32 − 22
1回戦	本田技研熊本 − 三陽商会	13 − 28
1回戦	トヨタ車体 − 三景	25 − 22
2回戦	中村荷役 − 大崎電気	25 − 21
2回戦	日新製鋼 − 本田技研	18 − 27
2回戦	大同特殊鋼 − 三陽商会	31 − 23
2回戦	トヨタ車体 − 湧永製薬	15 − 23
準決勝	中村荷役 − 本田技研	18 − 20
準決勝	大同特殊鋼 − 湧永製薬	18 − 20
決勝	本田技研 − 湧永製薬	20 − 26

優勝
湧永製薬

■3位決定戦

対戦	スコア
大同特殊鋼 − 中村荷役	26 − 19

3位
大同特殊鋼

■5位〜8位決定戦

対戦	スコア
大崎電気 − 三陽商会	24 − 19
日新製鋼 − トヨタ車体	17 − 20
大崎電気 − トヨタ車体	30 − 18

5位
大崎電気

対戦	スコア
三陽商会 − 日新製鋼	21 − 22

7位
日新製鋼

■9位〜12位決定戦

対戦	スコア
アラコ九州 − 本田技研熊本	18 − 41
デンソー − 三景	32 − 25
本田技研熊本 − デンソー	30 − 26

9位
本田技研熊本

対戦	スコア
アラコ九州 − 三景	24 − 31

11位
三景

［速報］

高松宮杯第39回全日本実業団ハンドボール選手権大会

女子の部トーナメント勝敗表

出場チーム

日立栃木（栃木）
大和銀行（大阪）
立山アルミ（富山）
シャトレーゼ（山梨）
ブラザー工業（愛知）
香川銀行TH（香川）
大崎電気（埼玉）
イズミ（広島）
東北ムネカタ（福島）
自衛隊体育学校（埼玉）
ジャスコ（三重）
オムロン（広島）
ソニー国分（鹿児島）
北國銀行（石川）

日程	対戦	スコア
5月14日(木) 1回戦	大和銀行 – 立山アルミ	24 – 30
5月14日(木) 1回戦	シャトレーゼ – ブラザー工業	28 – 22
5月14日(木) 1回戦	香川銀行TH – 大崎電気	21 – 42
5月14日(木) 1回戦	イズミ – 東北ムネカタ	34 – 16
5月14日(木) 1回戦	自衛隊体育学校 – ジャスコ	20 – 26
5月14日(木) 1回戦	オムロン – ソニー国分	37 – 18
15日(金) 2回戦	日立栃木 – 立山アルミ	34 – 32
15日(金) 2回戦	シャトレーゼ – 大崎電気	25 – 26
15日(金) 2回戦	イズミ – ジャスコ	32 – 26
15日(金) 2回戦	オムロン – 北國銀行	34 – 26
16日(土) 準決勝	日立栃木 – 大崎電気	25 – 33
16日(土) 準決勝	イズミ – オムロン	30 – 28
17日(日) 決勝	大崎電気 – イズミ	26 – 30

優勝 イズミ
2位 大崎電気

■ 3位決定戦

対戦	スコア
日立栃木 – オムロン	21 – 23

3位 オムロン
4位 日立栃木

■ 5位～8位決定戦

対戦	スコア
立山アルミ – シャトレーゼ	32 – 26
ジャスコ – 北國銀行	18 – 24
立山アルミ – 北國銀行	29 – 30
シャトレーゼ – ジャスコ	29 – 18

5位 北國銀行
6位 立山アルミ
7位 シャトレーゼ
8位 ジャスコ

■ 9位～14位決定戦

日程	対戦	スコア
15日(金)	自衛隊体育学校 – 大和銀行	25 – 33
15日(金)	香川銀行TH – ソニー国分	19 – 29
16日(土)	ブラザー工業 – 大和銀行	20 – 35
16日(土)	ソニー国分 – ムネカタ	30 – 18
	大和銀行 – ソニー国分	29 – 15
	ブラザー工業 – ムネカタ	33 – 15
	自衛隊体育学校 – 香川銀行TH	28 – 22

9位 大和銀行
10位 ソニー国分
11位 ブラザー工業
12位 ムネカタ
13位 自衛隊体育学校
14位 香川銀行TH

中体連だより

（財）日本中学校体育連盟ハンドボール部　内規

1　大会参加に当って

⑴選手（生徒）の安全、健康管理が全てに優先する。

具体的には、・シュート時のケガと速攻、・GKへのシュートが強打の時の止めるタイミング、・競技場の換気、遮光用カーテン、・水分補給などが上げられる。

⑵引率責任者、ベンチ責任者の役割

①大会会場での服装は、教員としてのマナーとして考える。スラックス、襟のある上着の着用を望みたい。

また、ゲーム中のベンチでの言動は、教員として節度あるようにお願いしたい。

②ゲーム開始前、スコアシートへのサインはチーム責任者または監督が確実に行なって下さい。

③金具のついたサポーター等は安全確認のチェックが必要。コルセットはユニフォームの中に入れさせる。

④パワーパンツはユニフォームの一部です。同色の物を使用させて下さい。

⑤ユニフォームの一部黒使用はルール上認められています。

⑥ハーフタイムの練習やゲーム終了時に、ゲーム中の選手がいるにも関わらず、コート内に駆け込むような行為などは自粛して下さい。

⑦ベンチでのメガホン、トランシーバー、携帯電話（PHS）等の使用は認めない。

⑧ゲーム終了後の相手チームへのあいさつは、時間短縮等の関係から「キャプテン」のみにて行なう。

⑨アウトドアシューズ、インドアシューズの区別を正確に行なわせて下さい。なお、シューズ裏がポイント状のシューズをインドア用にする事は認めていません。

⑶応援についてのマナー

従来から中学生の大会は、ゲームが盛り上がるように、また、保護者との一体化を求めるという考え方から、応援については基本的に制限しない方向できましたが、近年、常識範囲を逸脱するケースが見られるようになってきました。そこで、以下の様な点については、保護者の応援についてもご協力下さるよう伝達・指導をお願いいたします。

たとえば、・相手に対するファール時の拍手・RFの判定に対する誹謗、罵声・相手選手を誹謗したり、屈辱するような言動・観客席の椅子や手すりなどをメガフォン等でたたくなど施設を傷つけるような行為

①チーム関係の横断幕については、ゴールポスト裏は禁止いたします。また、自チームのゲームが終了し次第速やかに撤去して下さい。

⑷改善すべきプレー

以下の点については、プレーヤー、RF共にルーズになっていたり、不理解、不徹底なプレーであったりすることが、多く見られます。このようなプレーが生じた場合は指導、注意、以後反則の対象となっていきますのでご注意下さい。（日頃の練習、指導をお願いします。）

①フリースロー、スローイン時のポイントは静止状態を保つ事。ランニングの様な状態はやり直しになります。度重なる場合は、反則となります。

②フリースロー時のポイントは9mライン上ではありません。ラインを踏んでスローするプレーヤーが多く見られます。また、正確なポイントにいながらドリブルしたり、手渡しパスをするプレー(行為)は反則です。

③キックボールは「基本的には脚（膝から下）に触れれば反則」という解釈で考えています。ただし、相手から投げつけられたボールがダイレクトにぶつかった（触れた）場合などは従来通り、反則にはなりません。

④スローオフ、スローイン時のドリブルは反則です。

⑤ゴールエリアラインの中での意図的なデフェンス、サイドラインから意図的に外へでる行為は反則です。

⑥セービングについては、選手がボールの獲得のみに集中し、自他の安全面での配慮がかけるケースが多々見受けられます。指導・反則と対処いたします。

⑦空間等で「突き飛ばすプレー」は失格となります。

2　競技会立会人について

別紙参照

3　大会裁定委員会の決裁

大会会場（内、外）での暴力行為、著しいラフプレー、RFへの侮辱行為や会場内での著しいマナー逸脱行為、大会規定違反（マツヤニ使用等）等については、裁定委員会を開き、出場停止等の処置を行なう事があります。

（財）日本中学校体育連盟ハンドボール部としての「競技会立会人」の立場及び任務

1　「競技会立会人」の立場

⑴（財）日本中学校体育連盟ハンドボール部の9ブロック委員長は日本中体連の主催又は共催大会時の試合全体を整然と運営、進行させるための全責任がある。

⑵コート上での全責任はRFが持ち、ルールにしたがって決定していくが、それにもかかわらず、重大な事故等が発生した場合において、立会人は競技を中断させることができ、提訴に至ると考えられるような時は、RFの判断を覆すことができる。

2　「競技会立会人」の任務

⑴立会人は、競技規則、日本中体連の内規等が尊守されるように管理・指導する。

(2)ＲＦの事実判定については、試合終了後に忠告することができる。
(3)ＲＦのルール摘要が間違っている時は注意することができる。
(4)交代領域の管理・指導する事ができる。
(5)ＲＦの１人又は両方が試合中に審判ができなくなった時、審判長と協議して審判団の中から指名することができる。
(6)計時に間違いが生じ、２人のＲＦの意見が食い違った時その後の時間については、ＲＦと立会人が協議し決定する。
(7)タイムキーパー、スコアラーの仕事に疑問や間違いが生じた時、立会人が最終決定する。

３　「競技会立会人」の試合中の位置

(1)立会人は、交代領域及びコート全体が見えるオフィシャル席に座る。

４　「競技会立会人」が試合前に確認する事項

(1)必要な用具が用意されているかの確認。
(2)公式記録用紙にメンバーが正確に記録されているかの確認。
(3)両チームのユニフォームの確認。（ただし、ＲＦとの確認）

平成９年８月21日制定

高体連だより

全国高等学校体育連盟ハンドボール専門部
審判部・競技部内規および申し合わせ事項

高体連審判長　市瀬公敬

１　大会参加上の注意

(1)参加登録人数はインターハイ・選抜大会ともチーム役員３名・選手14名までとする。
(2)参加申し込み後に役員・選手をやむを得ない事情により変更する場合は大会前日までに、該当する校長および都道府県高体連部長の連名をもって全国高体連専門部事務局あて理由書を提出しなければならない。
(3)外国人留学生の参加は、大会登録選手14名のうち２名までとし、競技出場は７名中２名までとする。

２　引率責任者およびベンチの任務

(1)大会期間中の言動および服装は教職員として品位と節度のあるものとし、ベンチに入る際はスラックスに襟のあるシャツあるいはスポーツウエアを着用し運動靴を履き、左胸に責任者マークをつける。また、全国高等学校総合体育大会（インターハイ）ではチーム役員３名は必ず指定のワッペンをつける。
(2)コイントスの際にユニフォームの確認を行うが、事前（対戦前日など）にチーム相互で話し合っておくこと。それでも決しない場合は次の順により決定する。①組み合わせ番号の早いチームが濃い色のユニフォームを着用する。②組み合わせ番号の早いチームに選択優先権を与える。
(3)ゲーム開始前には選手のユニフォーム・パワーパンツ・コルセット・金具などのついたサポーターなどの点検をする。
(4)ゲーム開始前にスコアシートに確認サインをすること。
(5)松ヤニ・松ヤニスプレーなどの使用制限についてはその趣旨を理解し、主催者側の規定を厳守する。
(6)体育館では２足制を厳守させる。

３　応援について

(1)相手チームを誹謗したり挑発または侮辱したりする応援は厳に慎み、良いプレーには敵味方にかかわらず賞賛のできる応援がのぞまれる。
(2)チームの横断幕は、ゴールエリアの後方には競技運営に支障があるため張ることを禁止する。なおその他の地域においても自チームの試合終了後は速やかに撤去すること。

４　その他

(1)ゴールキーパーへの顔面シュート（体幹も含む）には次のように対処する。
ア：アドバンテージを適用するが、顔面シュートのおきた原因にかかわらずタイムアウトをとり、選手の安全を確認する。必要であればチーム役員のコート入場を許可する。
イ：静止または直線的にシューターに近づいてくるゴールキーパーに対する顔面シュートは警告以上の処置をとる。ただしディフェンスの反則によりバランスを崩してシュートした場合はこの限りではない。
ウ：選手の安全を確認し試合を再開する。
(2)７ｍスローコンテストで勝敗が決定したあとのスローは行わない。

連載

レフェリングの事例集

元IHFレクチャー　光嶋　磯雄

事例28【不徹底な観察】

Aチームのシュートを、BチームのGKが足元に落とすようにさばいたのを見て、両レフェリーは、その後攻撃が始まるものと思い、ボールに背を向けてセンターライン方向へ走り始めた。しかし、その時GKはボールをコントロールし損なってかボールはゴール内に転がり込んでしまい、慌ててそれを拾ってゴールスロー（パスアウト）をしたが、Aチームベンチから声があがり「それはゴールインではないか」レフェリーはタイムアウトをとって協議し、ゴールインを認めた。すると今度はBチームベンチから声が出て「GRが確認できなかったことをCRがゴールイン認定に賛成するとは一体どうしてなのだ」と。この出来事はレフェリーがボールへの注目という基本を守らなかったという一瞬の隙をつかれたことと、アピールはチーム責任者によるのみとなっているにもかかわらず、ベンチの声に左右されたという問題をさらけ出している。最終的にはコートレフェリーが判断・決定する事柄であるが、いづれにしても時間をかけずに処理すべきである。（18：9）

事例29【スローの位置とアドバンテージについて】

試合終了前、1点リードしているAチームの攻撃中にフリースローライン付近でオーバーステップの反則あり（残り10秒）、この違反をしたプレイヤーはボールを直ちにフロアーに置かずに自陣の方向へ転がした。だが素早い判断で速攻にスタートしていたBチームのプレイヤーが、ボールを拾いあげて（残り5秒）走り、つづいてフォローした味方にパスしてシュートに成功した（残り1秒）。得点は認められて、同点で試合は終わった。試合終了後、Aチームから「あの時のフリースローは、反則の場所から行なわれていなかったのではないか？」と意見が出されたが、レフェリーは「事実観察」であることと「試合終了」として聞くだけにとどめた。終了直前で1点をリードするAチームとしては、自チームの反則からBチームに速攻のチャンスを与えたくない気持ちがあってか、退場となる反則を意図的におかして時間かせぎをしようとすることかもしれない。つまり、非スポーツ的行為や過激な対人反則を故意におかして、レフェリーが罰則を（時計を止めることなく）適用する状況を期待しているといえないだろうか。もしこの時Aチームが、ボールをサイドライン外へ放り出したならば、レフェリーは、笛を吹いてAチームプレイヤーに罰則13：8、17：3dを課し、フリースローでの再開のあと時間切れとなり、Aチームの勝ちとなったと推測されるが、ここでは、反則後直ちにボールをその場のフロアーに置かずに、操作したことが逆に、Bチームにとって有利に展開するという皮肉な成り行きとなって、Aチームのねらいがはずれたため、アンフェアな反則をして勝ちを得たといわれないで済んだとも言えよう。しかしながら、ルールの基本理念（建前）からは、ボールを不正方向へ放り出した瞬間に笛が吹かれるべきであり、フリースローの位置の違いはアドバンテージの対象とはならない（例外は、自陣ゴールエリア付近では、相手ゴールに向けてのポイントから左右1.5mの幅の許容範囲）ので、この判定は、トラブルにならない成り行きとなったので救われたとも言える。なお、アピールは受け付けられなくても仕方のないことだが、受け入れられても残り時間数秒の時点では効果を期待しにくいであろう。（6：7c，13：1e，13：8，17：3d）

事例30【笛のタイミングとアドバンテージについて】

汗でフロアーが濡れているところで、Aチームのプレイヤーがパスを受けてフェイントを試みたが、スリップして転倒しボールを落としてしまったので、レフェリーは直ちにタイムアウトをとり、フロアーにモップをかけさせた。この時Bチームのあるプレイヤーは、「せっかくの速攻のチャンスなのになぜ止めたのか」の意向を示したが、レフェリーは「アクシデントなのでタイムアウトにした。お互いに良いコンディションでプレイ出来たら一番いいことでしょう」と説明したところ納得した。（2：4、IHF解説1f）

この判定は危険防止のため必要なことであるが、状況判断のタイミングについては、アドバンテージをどう見るかに個人差（レフェリーの個性・人格・ハンドボール思想など）のあるケースである。この時、Bチームのプレイヤーが、転がっているボールを拾って逆襲を始めてから何秒か遅れて笛が吹かれたならば、てっきりアドバンテージを潰されたと思い込む可能性が大きくなることも、頭のなかにインプットしておくほうが良い。

事例31【観察位置の選び方について】

Aチームの攻撃の終りがたのノーマークシュートが、ゴールポストにあたって跳ね返り、ボールはAチームの他のプレイヤーの膝に当たったのち、再びAチームがとった。レフェリーはこれをキックボールと判定し、Bチームにフリースローをあたえて再開した。7：1では、ボールを膝で扱うことは違反ではないとしているが、レフェリーは見間違えたのかもしれない。これはレフェリーの事実観察によることで、アピールはできない。せいぜい試合終了後雑談的に「あの時は膝にボールが当たったのだから、これからは注意してみてもらいたいものだ」というくらいしかないのである。

事例32【記録・計時係の重要性について】

ある年のJHLでの話。試合中得点掲示に疑問を持ったチーム役員が記録席役員に点検調査を申し入れたが、両レフェリー・記録係共に頑強に否定するので、試合終了後、チーム役員は、試合を収録したVTRを一緒に点検してみたら、なんとレフェリー側が間違っていたという全く様にならぬ結論となったのである。60分の試合が終わった後なので勝敗はもう動かせない。試合中はチーム責任者以外からのアピールには応答しなくても良いが、ことがことだけに終了後も尾を引くことになってしまった。原則的には、標章を付けたチーム責任者が質問・交渉する（4：1第5文）のが建前であるが、競技役員側の思い込みが強いと、チームの申し出が受け入れにくい心理状態も避けられず、双方

の記録の照合についても試合中長い中断にするわけにも行かず、平行線をたどるしかないようになる。勝敗は動かせないにしても、ＶＴＲによる動かぬ証拠で正しい答えが後になって判明したとなれば、この事実が競技運営への警鐘として上部委員会に提訴されても不思議ではない。

このような10年に一回起こるかどうかと思われるようなたぐいまれな出来事「得点の記入間違い」はチームにとってはこの上ない不運の極みとしかいいようがないし、運営側としては正直に非を認めて謝るしかない。正直に申し上げてこの文を書いていても、肌に鳥肌を生ずる思いである。（18：10、第19条）

事例33【レフェリーの中立性維持について】

あるレフェリーの昔の話。ルールから先に言うと、７：11にはボールがレフェリーに触れることがあっても、そのまま試合は続けられるとあるが、レフェリーは試合中各種のスロー実施などで、ボールが身近にきたので拾ってプレイヤーに渡してやるとか、ＧＲの立っている所に飛んできたボールを止めたりすることは、厳につつしむべきである。一方のチームに有利になると見られる行為をしてはならない。ボールが身近に来たら避けるようにする。ボールを手渡してやることが始めから終りまで両チームに公平・平等にやれるか？一方のチームに不利益をもたらしたならば、苦情が出ること間違いなしである。

事例34【非スポーツ的行為と威信を示すことについて】

ゴールエリア前でシュート体勢になったＡチームのプレイヤーが、Ｂチームの７ｍスロー相当の反則で阻止されたが、この時Ａのシューターは反則行為にあわせて大声をあげて倒れた。レフェリーは、これを黙殺してフリースローと判定した。Ａプレイヤーは、「あれは７ｍスローじゃないですか？」と不服そうな顔をしてつぶやいたが、レフェリーは「意識的に自チームに有利な判定を得ようとする行為は認めない」と告げてそれ以上の問答はせず。これはプレイヤーの心理が、わざと作為的に相手の反則行為の影響を拡大・増幅して、レフェリーからより有利な判定をひきだそう、そして又相手はこんなひどいことをするのだぞと見せ付けて、大方の同情を得ようとするオーバーアクションであり、これを見過ごすと、その後のプレイにはすべてこの種の挑発演技（わざと悲鳴のような声を出す、ちょっと押されても大げさに倒れるなど）という非スポーツ的態度・行為となることは確実である。レフェリーがオーバーアクションを無視し、一段低いレベルの判定をしたことは間違っていない。レフェリーは、常に毅然とした態度で笛を吹き、プレイヤーの物欲しげな態度を制止すべきであり、しかも「威信」を示す絶好のチャンスとしての等措行動が表現されるよう期待する。

事例35【アドバンテージ観察失敗について】

ＡチームがシュートしたＧＫはそれをダイレクトでキャッチした。レフェリーはこのシューターがラインクロスしてシュートしたとして、笛を吹きＢチームにフリースローを与えた。ＧＫがボールをキャッチしたのを見て、Ｂチームは直ちに攻撃に移り、先頭は既にセンターラインを越えようとしているので、ＧＫはロングパスを送ったが、レフェリーは再び笛を吹いてプレイをとめて、Ｂチームにフリースローをさせるためゴールエリア前まで引き戻した。これはアピール出来ることではないが、プレイヤーにとっては「このレフェリーは物知らずな奴だ」と思うに十分なエラーであり、二回三回と繰り返されるならば、不愉快感情を表すようになること確実となる。ＧＫにそのままプレイを続行させるのがアドバンテージ観察であり、この場合のラインクロスは吹く必要はない。このアドバンテージ観察を失敗したならば、レフェリーは素直にあやまるほうがよい。繰り返されるとチーム側から不規則発言が起こることもある。（13：6、14：10）

事例36【フリースロー実施時のプレイヤーのあやまちについて】

ＡチームがＢチームコート内の９ｍラインで、フリースローをするために位置に着いた。この時ボール保持者はいったんボールをフロアーにおいて、他のプレイヤーになにか話している。そこへ防御側が走り出て、ボールを前方へはじき速攻に移り得点に結びつけた。Ａチームプレイヤーは「スローをする前なのに防御側の飛びだしを許すのか」と喰ってかかった。レフェリーは答えなくても良かったが説明した。各種スローは実施の位置に着いてからボールを手離したならば、スローはすでに済んだものと見られフリー状態となる。防御側はそれを知っていたためスタートして成功したわけである。ルール知識の差があらわれたといえるのではないか。

事例37【サイドからのシュートに対する阻止行為について】

Ａチームのサイドプレイヤーが、ゴールエリアのアウターゴールライン近くでノーマークとなりシュートモーションに入ったが、走ってきたＢチームプレイヤーが手を伸ばして身体を押したので、シュートは成功しなかった。レフェリーは笛を吹いてＡチームにフリースローを与えた。14：1aではクリアーゴールチャンスのシューターを違反行為で妨害することは７ｍスローとすることが明記されており、ゴールエリアのサイド寄りならばフリースローで良いとは記されていないので、７ｍスローにするか、又は違反行為の軽重により17条を適用するか、あるいは無視・黙殺するしかないであろう。この種の笛を俗にボーナス笛・思いやり笛という。

事例38【空間でボールに二度触れることについて】

Ａチームが攻撃中のボールをＢチームが中途でインターセプトした。そのＢチームプレイヤーは、精一杯身体を伸ばした姿勢でボールに手を出したので、ボールは一度手に触れて、空間に上がった状態になった。それをつかんでパスを繰り返して前進し得点したが、レフェリーはそれを認めなかった。Ａチーム側は「つかみそこないだから、いいはずじゃないか」という。

誰でもハンドボールの習いはじめの時には、ボールに空間で二度触ってはいけないと教えられるはずだが、これは、国内・国際を問わず処理感覚に誤差がみられる。基本的には、ボールをキャッチする時の僅かな時間でのつかみなおしが、ファンブルであるとされている。両手又は片手で、ほんのちょっとの間ボールを持ちなおす状態を意味し、ポンと空間にあがってしまったボールは、いったんフロアーに落ちるか、他のプレイヤーに触れるか、ゴールポストに当たってからでなければいけないということである。ボールが空間に上がったときの高さとか、場所の移動は問題ではない。（７：７とその註）

事例39【８：1aと、ｂと８：2aの区別について】

ノーマークで突進するプレイヤーを追って、防御側プレイヤーは、精一杯ジャンプして、シュート直前のボールに手を伸ばしてタッチしたので、シュートは成功しなかった。レフェリーはこれを７ｍスローと判定した。試合終了後、そ

のプレイヤーは、レフェリーのところにきて（8：1a，b）についての見解を質問した。（8：1a）では相手と相手のボールに対して許される動作が記されてあるが、現在ほとんどのレフェリーはこれを（8：2a）（許されない動作）と区別して判定しようとしていない。この両ルールは、明らかに防御側に保障された「ファインプレイ」の極致場面を見せるか見せないかの違いを、認識させるものである。開いた手の手首の動かし方まで一瞬のうちに見通さなくてはならない。

事例40【攻撃側の違反行為について（アタッカーズファウル）】

ジャンプフェイント・ジャンプパス・ジャンプシュートを得意とするプレイヤーが、その動作の前後に付随して起こす違反行為は、しばしば見逃されている。相手に近いところで、ジャンプしてボールをプレイしたあとで、相手にぶつかる・突き当たる・押し倒すなどは、レフェリーの見る角度次第では防御側の違反とされることがある。特にゴールエリアラインの直前で守るプレイヤーにのしかかっていく場合では、後退することが相手の7mスローにつながるかも知れず、その上まともに衝突されて、倒される危険もあるため、フリースローだけで済ませてはならない。ジャンプしなくても逆に低い姿勢・頭を下げた姿勢で防御の隙間に体当たり的に突進することも、危険行為として同様に取り扱う。パスをした後でも同様である。（第17条、8：2a，b，c，d，註，8：4，8：5a，b，c，d）

事例41【非スポーツ的態度とレフェリーの威信】

10分間のハーフタイムを守ってAチームはコートに戻り、試合開始の位置に着いたが、Bチームは時間になっても出てこないので、運営役員が様子を見に行ったところ、「レフェリングが気に入らぬので控え室で抵抗するとのこと」。運営役員は、その後なんとか説得して試合は始められたが、10分以上経過してしまっていた。レフェリーは、運営役員にまかせるだけでなく、Aチームが無意味な抗議で、結果的に長い休憩時間を得て、逆にBチームは、不利益を与えられたという不公平の原因をつくったBチームのコーチに早めに警告したほうが良い。威信の最後の切札は18：14による試合中止（没収）である（17：1d，17：3C，17：5C，17：11，註，18：14。）もしAチームが敗れた場合は、「休憩時間の不公平」を許した競技運営側に対して、この事実を「書類による抗議」として、上部機関に報告提出を要請することが出来る。

事例42【ゼスチュアの誤解について】

退場者がベンチに座らずにいるのを見たレフェリーが、反対側のサイドライン付近から、その退場者に向かって手を振って、退場者に着席するように指示したが、その退場者はコート入場を許可されたと勘違いして、コート内に入ってしまい、不正入場となってしまった。入・退場の管理は、記録席役員が大半の責任を持って行なうとわかっていても、始めに打ち合せ・確認しておくべきである。レフェリーは、紛らわしい・誤解・勘違いさせるようなゼスチュアを避けて、タイムアウトをとるかベンチ前まで行って言葉で注意する等、理解しやすい方法・手段を用いることが親切と言えるであろう。

事例43【失格者が指示に従わないとき】

失格を告げられたプレイヤー又はチーム役員は、原則として残り時間全部にわたって、チームに干渉・影響を与える可能性のないところへ立ち去らなくてはならない。観覧席にいて、チームに指示・助言行為をしたり、レフェリーを野次ったりすることがあれば、タイムアウト後運営役員や他の役員に指示・依頼して体育館・競技施設から退去させることもある。これらの事実は、必ず上部機関に報告しなければならない。（17：5c，d，f，17：6第2文、17：7，18：12第2文，18：1，2）。レフェリーには試合運営を適切・正常なものとするため、（18：14）による権限がある。俗に「シャワーにいかせる」ともいう。

事例44【非スポーツ的な不規則発言と行為について】

一方のベンチから声が聞こえる。「あれがオーバー（ステップ）かァ！」「つかんでいるじゃないか！」「3m，3m！」「パッシブ、パッシブ！」「もっとしっかりみろ！」又は防御していて、相手にシュートを催促する意味で、何人かが手を叩いてレフェリーに気付かせようとする。

レフェリーはそれが自チームに有利な判定を催促するとか、レフェリーを誹謗するものと判断すれば、ベンチの前を通るときに注意しても良いし、タイムアウトをとっても良いし、イエローカードを示す、度重なれば失格宣告も大いに結構である。ベンチにいる者は経験を積めば、レフェリーの眼や耳を意識して控えめになるものだが、初対面のレフェリーに当たるとか、何らかのエラーをしたことのあるレフェリーに対しては、試してみようとするチームもある。この判定については、個々のレフェリーの持つ個性・人格・ハンドボール思想表現の仕方によって個人差があることは避けられない。（17：1d，17：5c，d，17：6，17：11第3文，註，IHF解説9c，11a）

事例45【分担の干渉について】

GRがフリースロー地点の指示や3mの修正に出てくることがある。これはその直後の展開や状況の急変に対応できない羽目に陥る恐れが大きいので，CRに一任すべきである。GRは，攻撃側の最終段階場面，すなわちシュートとゴールエリアラインとゴールインの観察・判定という任務・責任が果たせなくなることをおそれるべきである。（9：1，18：7）

ANA
ANK

全力投球宣言。
全日空のマイレージ

ますます貯めやすい、ますますおトク。

パワーアップ・マイレージ

さらに! 特典がパワーアップ

10,000マイルで **ANAセレクション**



15,000マイルから **無料航空券**

たとえば
15,000マイルで
国内約130路線の中から
お選びいただけます。

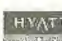
さらに! 貯めやすくパワーアップ

●5月より、ルフトハンザ・ドイツ航空が新たな提携パートナーに。

●国内・海外の提携ホテル数も約930に拡大。
国内では4月から、約180のANAフレンドリーパートナーズと、海外では5月から、5つの海外ホテルチェーンの約750ホテルと提携いたします。











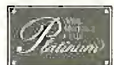




＊上記の海外提携ホテルでは、5月1日から7月31日まで積算対象料金でのご宿泊のホテルマイルが2倍カウントされるボーナスマイルを実施いたします(ハイアットは、アジア・太平洋地域の特定ホテルが対象となります)。

さらに! 飛ぶほど、サービスがパワーアップ

●「プラチナサービス」が多彩な特典で4月よりスタート。



- ◆5,000マイルのウェルカムボーナス
- ◆ご搭乗マイルを20%アップ(全日空・エアーニッポン便)
- ◆ご利用に応じた5,000マイル、10,000マイルのボーナス
- ◆国内線スーパーシート券、国際線アップグレード券、空港ラウンジのご利用など

全日空・エアーニッポン便を積算対象運賃でご利用いただき、1月から12月のプラチナポイント(国内線は1マイルを2ポイント、国際線は1マイルを1ポイントで換算)が50,000ポイントに達した方に、翌年4月から1年間上記のサービスをご提供いたします。

●さらに'99年4月からは「ブロンズサービス」もスタート。
30,000ポイントに達した方に国内線スーパーシート券などの特典をご用意いたします。

さらに! ANAカードも、機能がパワーアップ

●ANAカード会員なら、ますますマイルがアップ!
全日空・エアーニッポン便をご利用いただくたびに、ワイドカードで区間基本マイレージの15%、一般カードで5%をボーナスマイルとしてプラスいたします。

●"カードマイレージサービス・ショッピングアルファ"スタート!
クレジットによる国内の全日空各支店および空港カウンターでの航空券のお求め・機内販売・高島屋・日本石油SSでのお支払いでさらにマイルがアップします(一部の店舗を除きます)。

今なら、大チャンス! パワーアップ・キャンペーン

実施期間:'98年4月1日(水)~7月16日(木)(ご搭乗分)

抽選で 合計30,000名様に国内線・国際線無料航空券などをプレゼント!

◎期間中、機内にご用意した「専用応募ハガキ」にてご応募ください。
詳しくは、応募ハガキをご覧ください。

もれなく 全日空・エアーニッポン国内線全路線で3倍マイル!
●マイル積算対象運賃でご利用いただいたお客様に限ります。

国際線で お帰りハイヤーサービス
実施期間:'98年4月1日(水)~9月30日(水)
●全日空欧州線・米国東海岸線をファースト・ビジネスクラスで往復されると成田・関西空港からご希望の場所(130km以内)までハイヤーを無料でご提供いたします。

本キャンペーンに関するお問い合わせは
「全日空キャンペーン事務局」
ゼン ニッ クウ
0120-029-397
(受付時間9:00~17:30/土・日・祝日を除く)
おかけ間違いのないようお願いいたします。

全日空のご予約お問い合わせは 国内線フリーダイヤル 0120-029-222 または、国際線フリーダイヤル 0120-029-333 お近くの旅行代理店まで。

ANAマイレージクラブ

詳細についてのお問い合わせは ANAマイレージクラブサービスセンター 0120-029-767 (受付時間 9:30~17:00 土・日・祝日を除く)

「ジュニア対策に もっと本腰を」

Free Throw（フリースロー）

企画・広報委員
早川　文司

日本協会の新体制が動き出した。そこまでの過程はともかく、昨年のクマモト成功で一応の区切りをつけ新しい風の注入はいいことである。ただ、同じ路線を歩んでは意味がない。現代感覚にマッチした〝ニュー協会〟に変身しなければ、せっかくの新体制もかすんでしまう。

今年は前回大健闘した男子の世界学生選手権のほか、来年の男女世界選手権アジア予選がシニア、ジュニアとも行われる大切なシーズンである。

そうしたことを考える時、これまで以上に真剣に取り組まなければならないのが、ジュニア以下の強化だ。シニアにつなぐ金の卵に熱い視線を注ぐことが、日本ハンドボールの将来を決めるといっても過言ではない。

かつて人気沸騰したバレーボール界も最近は低迷が続いている。当面のカンフル剤は2000年五輪の好成績。そのために協会ではシニア、ジュニアの一貫指導体制をさらに強めるという。ジュニア＝シニア予備軍の認識を捨て、いい選手はどんどん引き揚げる方針を打ち出したと聞く。

ワールドカップ初出場を決めたサッカーもナショナル・メンバーに現役の高校生を抜擢し、ファンの注目を集めたし、当然ながらメディアも関心を示し、連日のように大きく取り上げた。

ハンドボール界ももっと話題づくりを積極的に推し進め、メディアへの露出度を増やすことを考えることが大切だろう。

そのためにもシニアとともにジュニアのいっそうの強化は欠かせない。国内だけにとどまらず、海外遠征を可能な限りこなすことも必要だ。

世界のきびしさ、取り組む姿勢を体験させると同時に、コンディション調整法を学ぶ絶好の機会である。そして有望な人材は年齢に関係なくシニアに登用する希望と刺激の場を増やし、メディアにアピールすることだ。それによって自覚も芽生え、さらに成長するだろう。

どちらかといえば、これまではシニアに目が向きがちだが、ジュニアの育成・強化を怠っては、日本の発展はスピードダウンしかねない。ジュニア対策にもっと本腰を入れることこそ、将来の日本ハンドボールを支える人材を生み、メジャースポーツに仲間入りを果たすのではないだろうか。

IHFニュース

●A.アンデルセンとS.ストエックリンが1997年ハンドボール・プレイヤーズ・オブ・ジ・イヤーに

1997年ハンドボール最優秀選手として、ワールドハンドボールマガジンの読者が、デンマークのA. アンデルセン、フランスのS. ストエックリンを1997年ワールド・プレイヤーズ・オブ・ジ・イヤーに選出した。この優れたバックコート・プレイヤーが、今や国際ハンドボール界において最も引っ張りだこの選手と認められた。

アディダスの協賛で、ワールドハンドボールマガジンが男子女子最優秀選手を選ぶため、読者に呼びかけを始めて以来、最も多数の投票が寄せられた。バーゼルのIHF本部はヨーロッパ以外の国からもかつてないほど届けられた、記録的な投票の数に圧倒された。ハンドボールのベストプレイヤーを選ぶという興味が、世界中に広がっている証拠である。

前回は2位、3位であったデンマークのスーパースター、アニャ・アンデルセンの人気は圧倒的で、彼女のライバル達は全く目立たない結果となった。2位のハンガリーの左投げのヘルガ・ネメスははるか及ばず、もう一人のデンマーク選手、ゴールキーパーのスザンヌ・ムンクがそれに続いた。オリンピックと世界選手権の首位の座は、この個人投票にも大いに反映したわけである。

男子の上位得票数はより僅差であったが、ついに、ハンガリーのジョゼフ・エレーショと、日本の世界レベルのゴールキーパー橋本を抑えてフランスのステファン・ストエックリンが選ばれた。1995年にジャクソン・リシャールソンがタイトルを獲得して以来初めて、フランス選手がハンドボール男子年間選手に選ばれた。かつて2度も選ばれたタラント・ドイシェバエフは、今年は目立たなかった。

読者投票結果は以下のとおり。

[男子]		得票数
1	S. ストエックリン（フランス）	2121
2	J. エレーショ（ハンガリー）	1953
3	橋本行弘（日本）	1867
4	V. グリムソン（アイスランド）	962
5	T. ドイシェバエフ（スペイン）	116
6	W. クジノフ（ロシア）	74
7	S. オルソン（スエーデン）	39
8	K. S. ユン（韓国）	33
9	C. レイナルド（キューバ）	25
10	J. リシャールソン（フランス）	19

[女子]		
1	A. Andersen（デンマーク）	1982
2	H. Nemeth（ハンガリー）	1063
3	S. MunkLauritsen（デンマーク）	967
4	H. Kvitsand（ノルウェー）	211
5	S. H. Han（韓国）	174
6	N. Deriugina（ロシア）	69
7	M. Erler（ドイツ）	68
8	M. AGogbe（コートダジュール）	67
9	C. Lindemann（ドイツ）	66
10	T. Sagstuen（ノルウェー）	64

過去の世界ハンドボール・オブ・ジ・イヤーは以下のとおり。

	男子	女子
1988	V. Vujovic（YOG）	S. Kitic（YUG）
1989	K. J. Won（KOR）	K. H. Mee（KOR）
1990	M. Wislander（SWE）	J. Kolar（AUT）
1991－1993	K. Wahl（読者投票なし）	
1994	T. Duishebaev（ESP）	M. H. Hogdahl（SWE）
1995	J. Richardson（FRA）	E. Koszis（KOR）
1996	T. Duishebaev（ESP）	O. K. Lim（KOR）
1997	S. Stoecklin（FRA）	A. Anderson（DEN）

●コパカバーナでビーチハンドボール、ブラジルで初の大陸選手権

パン・アメリカ大陸連盟が開催した、初めてのビーチハンドボール大陸選手権がリオデジャネイロのコパカバーナで行われ、何千人もの観客が見守る中、6カ国の男子ナショナルチームが参加した。

決勝では開催国のブラジルチームが、予選ラウンドで唯一敗れたライバルのキューバを、21対10、17対10で破った。銅メダルは米国、ウルグアイ、カナダを退けてアルゼンチンが獲得した。

パン・アメリカ連盟はこのすばらしい成功のあかしとして、来年も再びビーチハンドボール選手権を開催する。

第3回ジャパンオープントーナメント要項

【大会開催要項】

1　主催
(財)日本ハンドボール協会
山鹿市・鹿本町・鹿央町・山鹿市教育委員会・鹿本町教育委員会・鹿央町教育委員会
第54回国民体育大会山鹿市実行委員会・第54回国民体育大会鹿本町実行委員会・第54回国民体育大会鹿央町実行委員会

2　主管
熊本県ハンドボール協会

3　後援
(財)日本体育協会・熊本県・熊本県教育委員会・第54回国民体育大会熊本県実行委員会・(財)熊本県体育協会・山鹿市体育協会・鹿本町体育協会・鹿央町体育協会・熊本日日新聞社

4　期日
男子の部　平成10年8月6日(木)～8月9日(日)〈4日間〉
女子の部　平成10年8月6日(木)～8月8日(日)〈3日間〉

5　会場
男子の部（山鹿市・鹿本町・鹿央町開催）
山鹿市総合体育館
鹿本町民体育館
鹿央町公民館
女子の部（山鹿市開催）
オムロン鹿陽センター
山鹿市総合体育館

6　参加資格
(1) A平成10年度(財)日本ハンドボール協会に年度当初「一般A」に登録された単独チーム及び個人とする。ただし、年度当初以降の追加・移籍登録での出場は認められない。また日本リーグ（「一般L」登録)・全日本学生ハンドボール連盟・全国高等学校体育連盟ハンドボール部・全国高等専門学校ハンドボール部に登録されたチーム及び個人の出場はできない。
(2) 各地区の予選を通過したチームまたは地区の推薦をうけたチームとし、開催県は男女各1チームの出場を認める。
(3) 中学生以下の出場は認めない。
(4) 各ブロック出場割り当て数について

地区	北海道	東北	関東	北信越	東海	近畿	四国	中国	九州	開催県	計
男子	1	4	6	3	3	5	2	3	4	1	32
女子	1	2	3	1	2	2	1	1	2	1	16

《注》各都道府県・ブロック予選にあたっては、選手登録の確認についてはそれぞれの主管協会が責任をもって行うこと。また、各都道府県代表による2チーム以内が出場することによって実施されることが望ましい。

7　参加人数
男女とも、1チーム役員6名以内、選手16名合計22名以内とする。
（監督が選手を兼ねる場合は選手としても参加申し込みをすること）

8　競技規則
平成10年度「(財)日本ハンドボール協会競技規則」による。

9　競技方法
男女とも「トーナメント方式」による。

10　表彰
(1) 男女とも優勝チームには日本ハンドボール協会会長杯（持ち廻り）を授与する。
(2) 第1位から第4位までのチームには賞状を授与する。
(3) その他。

11　開会式
男女とも平成10年8月6日(木)8時50分～
鹿本町民体育館
（公開演技・・・8時00分～8時30分）

12　表彰・閉会式
男子の部・・平成10年8月9日(日)12時～
鹿央町民公民館
女子の部・・平成10年8月8日(土)12時～
山鹿市総合体育館

13　競技申し合わせ事項
(1) 競技時間は、男女ともすべての試合を30分（10分）30分とする。
同点の場合の延長戦は、準決勝までは第1延長、決勝戦は第2延長までとし、その後7mTCで決する。
(2) ユニホームは、各チーム異なる色の濃淡2着を用意すること。
（GKのユニホームはCPのユニホームとすべて異なるものとする。）
(3) 背番号は、大会申込書に記載された番号（No.1～16）と同一のものを使用する。ただし試合エントリーは12名とする。
(4) シューズは、体育館履き専用を着用し、屋外履きシューズとの区別をすること。
(5) 試合球は、男女とも「公認球（ミカサ・モルテン）の手縫いボール」とする。
(6) 松ヤニの使用は禁止する。ただし、松ヤニスプレーの使用は認める。
(7) チームの責任者は「指定のマーク」をつけること。

平成10年度第9回

全京都車いすハンドボール大会参加への勧誘

京都府ハンドボール協会副会長　**小西博喜**

去る1998年2月号「ハンドボール」第382号で、第8回大会の誌上報告を致しました。

第9回大会の期日は、平成10年11月30日（日）の開催予定であります。

尚、京都障害者スポーツ振興会主催の「車いすハンドボール」の練習日程は次の通り開催されております。

名　称　「障害者スポーツのつどい」
開催日　4月19日(日)・5月10日(日)
　　　　6月14日(日)・7月 5日(日)
　　　　8月 9日(日)・9月13日(日)
　　　　10月11日(日)・11月 8日(日)
時　間　13時30分～16時
会　場　京都府立体育館
　　　　(京都市北区大将軍
　　　　TEL(075)462－9191)

◎問い合わせ先
京都障害者スポーツ振興会
事務局長　金子知拓　宛
京都市左京区高野玉岡町五
TEL(075)712－7010・FAX同じ

「車いすハンドボール」は、全国各都道府県ハンドボール協会の生涯スポーツとして、社会教育的な課題であることは周知の通りであります。京都では障害者スポーツへの深い社会的認識と協力を得て、社会福祉的ボランティア活動にまで発展しました。事務局は「車いすハンドボールが、地域・施設・養護学校・クラブで実施され、障害者スポーツとして定着し、さらに普及・振興し、障害のある人々のスポーツの日常化と、スポーツ活動に参加する人々の層の拡大を図り、合せて広く交流の場とすることが目的である」としております。

したがって協会関係者は、競技スポーツとしての健常者ハンドボールと「共存」しながら、「新しい両輪ハンドボール」を目指し、「車いすハンドボール」を「生涯ハンドボール」の仲間として普及・育成する使命と責任をもっていることは申し上げるまでもありません。

今、「車いすハンドボール」についての問い合わせがあり、ハンドボール関係者の目に見えないご尽力に感謝しております。

是非一度、上記の日程の中で、まず「車いすハンドボールコーナー」をご覧頂くことをおすすめし、“百聞は一見にしかず”興味と関心をお持ち頂けるものと願い、実施に向けてご期待申し上げております。お越しをお待ち致します。

簡易ハンドボール指導の実践報告書

学校体育ハンドボール検討委員会

福島県相馬市立玉野小学校　鳥中　雪野

1　題材名「ハンドボール5」（複式学級／3年男子3名女子1名、4年男子3名女子3名／同領域内容）

2　児童の準備状況／a体力＝スポーツテストの結果より3年生は平均値、特異肥満児・腕に障害のある児童。4年女子は全員平均値以下、運動を好まない傾向。男子は運動を好む。b技能(1)ボールを握ることができる児童〈8〉(2)ボールを握ったまま腕をふりきって投げることができる児童〈5〉(3)ステップシュートが打てる児童〈7〉(4)ジャンプシュートが打てる児童〈7〉(5)1対1でフェイントでデフェンスをかわし、ジャンプシュートがうてる児童〈3〉。

3　種目特性のとらえ方／a運動の特性＝誰でもできる気楽さがあり、ボールを片手で握ってプレーするので、スピードにのった多彩なテクニックが駆使でき、コンビネーション、敏捷性、巧緻性が要求される。2つのチームが入り交じってシュートをして勝敗を競い合う楽しさがある。b児童からみた特性＝ディフェンスとGKをかわしてシュートを入れる。ボールコントロールが容易で楽しい。GKにとっても上からとんでくるシュートで、他のスポーツでは味わえない面ももっている。

4　実践の意図／近い将来、ハンドボール競技が小学校体育科で行われようとしており、簡易ハンドボールの実践検討の必要がある。

5　教材化における工夫／a柔道畳ゴール＝セフティーマット、卓球台、跳び箱で試行。

小学3、4年生に適した高さで、準備、後かたづけの際に少人数での移動が可能な柔道の畳を1枚を利用。bゴールエリアラインの工夫＝ボーナスポイントエリアを設けたが、効果はあまりなかった。

cバスケットのポイントエリアの用＝小学生には適したラインとなった。d女子ボーナスポイントの設置

6　実践の実際／a児童の振り返りを重視した学習活動の組織化(1)振り返りの機会の確保＝3回のゲームの設定。作戦やめあてについて話し合う活動。作戦の練習をする時間の確保。(2)次時の課題の発見＝学習カードの活用。学習活動の反省。課題の明確化と次時への見通し。b個の良さを生かした支援(1)動き方の指示＝練習の仕方や攻め方、守り方の例を図示。動きの比較。(2)見合うこと・教え合うことの奨励c児童自身が高まりを確認できる評価の工夫

7　指導計画（表1参照）

8　簡易ハンドボールとしての成果／aDFをひきつけてのポストプレーやセンターがDFを崩してからのシュート。bキーパーの楽しさ。c0－6で守り、シュートコースをふさぐ。d3センターで、パスをだし定位置に戻る。e各児童のよさを生かしたポジショニング。走りながらキャッチしてシュートモーションに入る。f小学校中学年までの基本の運動の主なねらいを、十分にみたすハンドボールとしての補助運動。g競う試合。

9　学校体育の立場からの成果／指導計画にある児童の姿に迫ることができた。

10　課題／aボールの握れない児童がゲームで楽しむことができなかった。1号球より小さいボールを利用する（特に3学年）。b体育館のスペースの関係で、十分な運動量の確保ができなかった。c視聴覚教材の活用が必要。dキーパーのルールについては、試合で経験する児童が2名で、ルールづくりを煮詰めることができなかった。

■指導計画（単元の指導計画）

次	時	学習のめあて	評価の観点	児童の姿との関連
第1次	1	S 学習のねらいをとらえ、見通しをもつ。	○ハンドボール5に興味・関心をもつことができる。 ○ルールや約束を知り、協力してゲームしようとする。	○ハンドボール5の基本的なルールや約束を知り、協力して楽しくゲームしようとする意欲づけを図る。 ○実際にハンドボール5をすることによって、どんなゲームなのかを知り興味・関心を持たせる。
第2次	2	自分やチームのめあてを決め、協力して練習したり、ゲームをしたりする。	○意欲的に練習したり、ゲームをしたりする。 ○ルールや約束を守って練習したり、ゲームをしたりする。 ○自分の力に応じためあてを決めることができる。 ○お互いの動きを見合い、教え合ったり、励まし合ったりして協力して練習やゲームを行なおうとする。	○ハンドボール5をする中で、お互いに技能や努力を認め合い、教え合ったり励まし合ったりしながら、楽しいゲームができるようにする。 ○ゲームや練習の中でパスやシュートなどの基本的な技能が身につくように、個人やグループの課題に気付き解決していけるようにする。
第3次	4	チームや自分に応じためあてを決め、ルールや作戦を工夫して、協力して練習したり、ゲームをしたりする。	○意欲的に練習したり、ゲームをしたりする。 ○ルールを改良したり、新たに作ったりした上で、ルールや約束を守って、練習したり、ゲームをしたりする。 ○自分の力に応じためあてを決めることができる。 ○お互いの動きを見合い、教え合ったり、励まし合ったりして協力して練習やゲームを行なおうとする。	○ハンドボール5をする中で成功や失敗、お互いの技能、努力を認め合い協力して楽しいゲームができるようにする。 ○ルールを改良したり、新たに作ったりしてゲームを行なった上で、ルールをふりかえる機会を設け、さらに工夫していけるようにする。 ○工夫したルールに応じて、練習の仕方も工夫していけるようにする。 ○ゲームや練習の中でパスやシュートなどの基本的な技能が身につくように、個人やグループの課題に気付き解決していけるようにする。
第4次		励まし合ったり、助け合ったりして、楽しいゲームをする。 E	○お互いの努力した点、良かった点を認め合うことができる ○練習の仕方、めあてのたて方ゲームについて反省し、まとめることができる。	○お互いの努力した点、良かった点を認め合い、できるようになった喜びを味わわせるとともに、さらに助け合い、協力していこうとする意欲を高める。 ○学習を振り返らせ、練習の仕方・態度について、自己やお互いを見つめることができるようにする。

本時の目標

○自分の力にあっためあてを持ち、練習やゲームをすることができる。
○お互いの動きをよく見て、教え合ったり、励まし合ったり、助け合ったりして、協力して練習やゲームをすることができる。
○ルールや約束を守って、安全に練習したり、ゲームをしたりすることができる。

文部大臣認定「社会体育指導者の知識･技能審査認定事業」

平成10年度　公認C級コーチ(ハンドボール)養成講習会開催要項

1. 目的

スポーツやハンドボールの指導に必要とされる理論と実践を研修することによって、指導者としての資質の向上や社会的認知をはかるとともに日本ハンドボール界のリーダーとして、競技力向上及び普及に寄与していただくことを目的としています。

詳しいことは、追って受講者に直接連絡いたしますが、概略は次の通りです。

2. 主催

財団法人　日本体育協会

財団法人　日本ハンドボール協会

3. 後援

文部省

都道府県体育協会

4. 受講内容（資格取得のための教科）

●共通教科　(財)日本体育協会主催

スポーツ一般の心理学、医学、トレーニング科学、指導論等

●専門教科　(財)日本ハンドボール協会主催

ハンドボールの技術、戦術、体力、指導法に関する理論と実践

5. 講習会日程

●共通教科（体育系大学卒業者は免除措置があります）

◎集合教育（スクーリング）

田沢湖青少年センター

前期＝8・27(水)～8・31(日)

後期＝11・26(水)～11・30(日)

オリンピック記念青少年センター

前期＝8・19(火)～8・23(土)

後期＝11・21(土)～11・25(火)

同上(2)

前期＝9・1(月)～9・5(金)

後期＝12・13(土)～12・17(水)

南紀スポーツセンター

前期＝9・10(水)～9・14(日)

後期＝12・10(水)～12・14(日)

玉野青少年センター

前期＝9・3(水)～9・7(日)

後期＝12・3(水)～12・7(日)

福岡スポーツ科学情報センター

前期＝8・26(火)～8・30(土)

後期＝12・2(火)～12・6(土)

＊原則として、前期及び後期を上記会場から近い場所を選んで受講するが、日程の都合により他会場を選択してもよい。

◎通信教育　10月から12月（3ケ月間）

●専門教科集合教育（5泊6日予定）

期日：6月29日(月)～7月4日(土)

場所：国立中央青年の家

〒412-0006　静岡県御殿場市中畑2092-5

6. 受講者

年齢制限　22歳以上

ナショナルチームスタッフ

日本リーグチーム1部・2部男女チームスタッフ（次期スタッフ含む）

各チーム1～2名

・各都道府県協会より推薦された指導者

・各連盟より推薦された指導者

・日本協会が推薦した指導者

7. 募集人員

約40名

8. 経費

講習会受講費用：共通教科18,000円

専門教科20,000円

共通教科、専門教科の集合教育についての宿泊費は補助する。

9. 問い合わせ先

筑波大学　大西武三　0298－53－6507（FAX）

駒沢大学　村松　誠　03－3418－9433

（FAX）03－3418－9127

■平成10年度公認 C級コーチ養成講習会受講申込者

	氏名	都道府県	勤務先
1	長谷部次雄	高　知	県立嶺北高校
2	蒲生　晴明	愛　知	日本ハンドボール協会
3	玉村　健次	広　島	湧永製薬㈱
4	高橋　精一	大　阪	桃山学院高校
5	黄　　慶泳	大　阪	㈱大和銀行
6	首藤　信一	埼　玉	大崎電気工業㈱
7	中田　親広	埼　玉	大崎電気工業㈱
8	砂川　正雄	東　京	㈱三陽商会
9	末岡　政広	愛　知	大同特殊鋼㈱
10	佐藤壮一郎	愛　知	大同特殊鋼㈱
11	角谷喜代重	福　井	北陸電力㈱
12	中里　賢二	三　重	本田技研工業㈱
13	日原　正和	三　重	本田技研工業㈱
14	山村　敏之	三　重	本田技研工業㈱
15	田口　　隆	三　重	本田技研工業㈱
16	河原　隆雅	広　島	湧永製薬㈱
17	有村　裕司	愛　知	㈱デンソー
18	笠　　哲也	愛　知	㈱デンソー
19	中垣内孝生	栃　木	㈱日立製作所
20	堀田　敬章	石　川	㈱北国銀行
21	藤本　　元	山　梨	㈱シャトレーゼ
22	村山みどり	山　梨	㈱シャトレーゼ
23	佐賀　厚幸	高　知	高知市立横浜中
24	斎藤慎太郎	東　京	日本体育大学
25	志村　和子	東　京	㈱能力開発研究所
26	石田　智宏	福　島	県立本宮高校
27	奥園　栄純	熊　本	熊本県体育協会
28	宮田　政克	熊　本	
29	原田　宏樹	愛　媛	県立第三養護学校
30	大橋　　晃	愛　知	名短大附属高
31	疋田　雅己	愛　知	名古屋西高校
32	朴　　英大	東　京	㈱中村荷役
33	武藤　　誠	東　京	駒込学園
34	鈴木まさみ	東　京	日女体大大学院
35	扇山　貴司	愛　媛	筑波大大学院
36	井料たか子	鹿児島	
37	福永　光雄	鹿児島	海上自衛隊
38	伊藤　論志	愛　知	県立春日井南高
39	坂井田弘美	岐　阜	東濃用水道事務所
40	吉田　達明	鳥　取	県立境水産高校
41	向井　勝二	愛　知	東海女子高
42	後藤　宣夫	千　葉	県立船橋北高
43	得居　秀匡	東　京	
44	加藤　道夫	神奈川	向の岡高校
45	石川　泰弘	神奈川	県立麻生高校
46	木下　昭彦	神奈川	県立高津高校
47	松川　純史	神奈川	横浜市立宮田中学校

大会審判一覧表

平成10年4月8日現在　審判委員会

審判員名		
	CHUNG・LIM（韓国）	小山　勉・佐路　清隆（指名）
寺内　啓之・吉田　正明（大阪）	佐々木昭彦・金谷　将史（大阪）	
	楓　健児・渡辺　貞彦（指名）	森　敏郎・岩本　晃寿（愛知）
中野　正彦・坪井　雅典（愛知）	木和田浩史・河合　千丈（愛知）	青木　英樹・根来　英介（愛知）
	武智　誠治・松原　誠起（指名）	大橋　幹正・俵　秀生（北海）
多田　和生・中館　豊（岩手）	小林　一夫・土屋　雅男（埼玉）	北中　弘規・山口　和博（石川）
楓　健児・浅野　幹也（愛知）	佐谷　光一・村尾　亮（大阪）	中山　学・山本　圭司（岡山）
柳原　勉・田中　達男（愛媛）	杉山　孝広・渡辺　一晶（愛媛）	成岡　浩・清水　修（高知）
曽根　哲司・小川　昌志（徳島）	田中　一則・藤本　幹生（熊本）	仲里　貢・中地　健三（沖縄）
	渡辺　邦夫・山口　工（北海）	古関　直樹・山本　努（秋田）
高橋　善浩・安孫子　功（山形）	柏崎　博之・小野　恭一（山形）	斉藤　仁宏・田川　卓史（福島）
二瓶　元嘉・菊田　克紀（福島）	菊田　政行・滝川　一徳（茨城）	八十山　修・中田　一宏（石川）
	仲田　稔・植村　彰（指名）	小林　一夫・土屋　雅男（指名）
龍　弘美・貞島　早苗（指名）	大石　克哉・光安美津夫（富山）	吉田　正明・翁長　徹（兵庫）
田原　和雄・河田　孝一（山口）	松本　知己・高野　修（愛媛・広島）	福島　亮一・村田　武（熊本）
新荘　梯男・水上　秀憲（福岡）	高良　政幸・三輪　一義（沖縄）	金子　弘明・児玉浩二郎（長崎）
石原口秀樹・渡辺　正徳（宮崎）		
	宮城　靖・上江州　登（沖縄）	鳥谷越　洋・服部　博幸（長野）
三浦　博英・高井　洋（青森）	柏館　秀一・西郷　晃（岩手）	鈴木　雅史・添田　崇（岩手）
尾形　俊賢・満井　寿彦（宮城）		
	後藤　登・清水　宣雄（指名）	浜田　浩和・小笠原久朗（指名）
佐藤　睦朗・大澤　由和（岩手）	桜打　佳浩・大石　克哉（富山）	片山　聡・鈴木　教昭（静岡）
小林　一夫・土屋　雅男（埼玉）	中山　富夫・大出　治夫（栃木）	仲田　稔・植村　彰（千葉）
福田　弘・冨田　拓（茨城）	栗田　与一・譲原　昭（群馬）	堀越鉄太郎・山田　啓太（神奈川）
吉岡　寛之・滝口　真聖（神奈）	松川　純史・木村　奨（神奈）	本田　義昭・安井　定徳（神奈川）
	大熨　嘉彦・家永　昌樹（指名）	棚橋　伸男・大橋　幹正（北海）
[illegible]井　善彦・竹野　誠司（福井）	楓　健児・渡辺　貞彦（愛知）	浅野　幹也・神谷　真次（愛知）
[illegible]村　久晴・中川　利彦（愛媛・高知）		
	後藤　登・清水　宣雄（国際）	浜田　浩和・小笠原久朗（国際）
仲田　稔・植村　彰（千葉）	小林　一夫・土屋　雅男（埼玉）	藤井　俊朗・大熨　嘉彦（岡山）
龍　弘美・貞島　早苗（佐賀）		
	阿部羅大造・浜野　大助（指名）	三谷　雅人・片山　拓（三重）
加藤　英二・中村　昌人（京都）	丸谷　謙二・奥田　政俊（奈良）	伊藤　公英・西堀　和彦（滋賀）
佐々木昭彦・金谷　将史（大阪）	梅田　淳夫・横山　和哉（和歌山）	大西　清志・井登　正典（兵庫）
早田　博之・進木　丈実（鳥取）		
	藤井　俊朗・大熨　嘉彦（指名）	村瀬　清史・米内山壮之（北海）
大鐘　雅善・飯名　剛士（千葉）	山口　弘夫・岩山浩一郎（富山）	名倉　昭弘・近藤田都哉（岐阜）
伊藤　保仁・尾崎　浩祥（大阪）	佐々木昌弘・高原　浩徳（大阪）	吉田　正明・岡辺　清和（兵庫）
林田　光秀・山内　徹好（滋賀）	小山　勉・佐路　清隆（京都）	原井　進・角　直樹（山口）
定岡　孝明・東福　康浩（愛媛）	清水　修・中川　利彦（高知）	遠藤　雅章・藤田　章祐（福井）

平成10年度全日本

大会名	開催地	期日	
第39回男子全日本実業団選手権	大阪 守口市	5/1 －4	◎村上　潔　○北山　隆 家永　昌樹・大熨　嘉彦（大阪・岡山）
第39回女子全日本実業団選手権	名古屋	5/14 －17	◎喜井　美雄　○板倉　孝雄 浅野　幹也・有我　勝典（愛知）
第49回全国高校総合体育大会	徳島	8/1 －8	◎市瀬　公敬　○細沢　覚 渡部　努・高橋　一（秋田） 名倉　昭弘・近藤田都哉（岐阜） 渡辺　真一・米田　健（広島） 濱田　浩之・森口　裕次（徳島）
第41回全日本教職員大会	福島 石川町	8/10 －13	◎島崎　政治　○小友　正人 山口　淳・小田中達夫（岩手） 福島　稔・佐藤　成紀（福島）
第3回（国体リハーサル） ジャパン・オープントーナメント	熊本 山鹿市	8/6 －9	◎斉藤　実　○森山　正治　○大村　守也 藤井　俊朗・大熨　嘉彦（指名） 池田　尚美・久保　博（広島） 財満　昭彦・山下　智紀（熊本） 境　吉彦・牟田　安典（佐賀）
第27回全国中学校大会	仙台市	8/18 －21	◎岡本　憲和　○斉藤　仁宏 佐藤　成紀・福島　稔（福島） 大沼　一義・高橋　俊英（秋田）
第53回神奈川ゆめ国民体育大会	横浜市 川崎市	10/25 －29	◎斉藤　実　○上久保重治　○松本　宏 松崎　雅芳・小野寺明彦（北海） 福島　亮一・村田　武（熊本） 羽田　裕一・菊地　源（東京） 細井　義彦・遠藤　秀之（神奈川）
第41回全日本学生選手権	名古屋	11/11 －15	◎佐野　和夫　○浅田　邦雄 中島　昭博・谷藤　節雄（岩手） 有我　勝典・杉浦　俊孝（愛知）
第50回全日本総合選手権	神戸	12/23 －27	◎斉藤　実　○北山　隆 武智　誠治・松原　誠起（国際） 阿部羅大造・浜野　大助（石川）
第7回JOCカップ ジュニア・オリンピック	大阪	調整中	◎岡本　憲和　○北山　隆 小山　勉・佐路　清隆（京都） 浅井　隆志・岸本　光夫（大阪） 松森三樹男・西園　友秀（兵庫）
'99全日本実業団チャレンジ	未定	未定	
第22回全国高校選抜大会	大阪	3/24 －28	◎市瀬　公敬　○細沢　覚　○佐谷　光一 工藤　里花・外館由美子（岩手） 楓　健児・浅野　幹也（愛知） 矢野　勝弘・佐川　正巳（奈良） 田原　和雄・河田　孝一（山口）

98年度　国内大会日程

月	大　会　名／開催日程	開催地／開催場所	住所／電話番号	最寄り駅
7月	第11回全国小学生大会(予定) 7月31日～8月2日	京都府 田辺市中央体育館	綴喜郡田辺町田辺丸山19 07746-2-1501	近鉄線 新田辺駅
	第4回ヒロシマ国際大会 7月23日～26日	広島県 東区スポーツセンター	東区牛田新町1-8-3 082-222-1860	アストラム線 牛田駅
	第18回全国クラブ選手権大会(東) 7月24日～26日	福島県 本宮町総合体育館	本宮町大字高木重池11 0243-35-1711	東北本線 本宮駅
	第18回全国クラブ選手権大会(西) 7月10日～12日	高知県 高知市民体育館		
	第6回東日本小学生大会 7月25日～26日	山形県 東根市民体育館	東根市大字東根乙川9-1 0237-42-2311	奥羽本線 東根駅
8月	第49回全国高校選手権大会 8月1日～8日	徳島県 市立体育館	徳島市徳島町6番 0886-54-5188	徳島本線 徳島駅
	第41回全日本教職員大会 8月10日～13日	福島県 石川町総合体育館	石川郡石川町字渡里沢296-8 0247-26-8038	水郡線 磐城石川駅
	第25回全国高等専門学校選手権大会 8月1日～2日	東京都 駒沢体育館	世田谷区駒沢1-1 03-3421-6121	新玉川線 駒沢大学駅
	第3回ジャパンオープントーナメント 8月6日～9日	熊本県 山鹿市総合体育館	山鹿市熊入町416 0968-43-0090	西鉄バス 日輪寺
	第27回全国中学校大会 8月18～21日	宮城県 仙台市体育館	仙台市太白区富沢1-4-1	
	第5回アジア女子ジュニア選手権(兼世界選手権アジア予選) 8月31日～9月4日(予定)	大　阪		
9月	第23回日本リーグ(前期) 9月29日～10月19日	各　地		
10月	第53回国民体育大会 10月25日～29日	神奈川 横浜文化体育館　他	横浜市中区不老町2-1 045-641-5741	根岸線 関内駅
11月	高松宮杯男子41回女子34回全日本学生選手権 11月18日～22日	愛知県 愛知県体育館　他	名古屋市中区二の丸1-1 052-971-2516	地下鉄 市役所駅
	'98ジャパンカップ 11月22日～25日	愛知県		
12月	第50回全日本総合選手権大会 12月23日～26日	兵庫県 神戸グリーンアリーナ	神戸市須磨区緑台 078-796-1151	地下鉄 総合運動公園駅
	JOCジュニアオリンピックカップ 12月25日～27日	大阪府		
1月	第23回日本リーグ（後期） 1月9日～3月14日	各　地		
2月	全日本実業団チャレンジ99 2月13日～15日	山口県		
	西日本中国ブロック小学生ハンドボール大会 2月10日	岡山県		
3月	第23回日本リーグプレイオフ 3月19日～22日	未　定		
	第22回全国高校選抜大会 3月24日～28日	大阪府		

1998年～1999年　海外事業日程

月	事　業　名	開催日程	開催場所	NA 男子	NA 女子	Jr. 男子	Jr. 女子	学生 男子	学生 女子
98年6月	第3回女子世界学生選手権	6月26日～7月6日	ポーランド						○
7月又8月	第5回アジア女子Jr選手権 兼1999世界選手権予選	未定	東アジア地区				○		
	第4回ヒロシマ国際大会	7月23日～26日	広島	○					
8月	第6回アジア男子Jr選手権 兼1999世界選手権予選	8月25日～9月10日	バーレーン			○			
	日韓スポーツ交流事業(受入･派遣)	未定(12歳～16歳)	神奈川県(予定)			予定○	○		
9月									
10月									
11月									
12月	第13回アジア競技大会 兼1999世界選手権予選予定	12月7日～18日	バンコク	○	○				
	第15回男子世界学生選手権	12月30日～1月7日	ユーゴ					○	
99年1月									
2月									
3月									
4月	第7回女子アジア選手権 兼2001世界選手権予選	未定	未定		○				
5月	第16回男子世界選手権大会	5月23日～6月6日	エジプト	○					
6月									
7月									
8月	第12回女子Jr世界選手権	8月1日～15日	中国				○		
	第12回男子Jr世界選手権	8月22日～9月5日	カタール			○			
9月									
10月									
11月									
12月	第14回女子世界選手権大会	12月5日～19日	ノルウェー		○				

受講者募集

ATHLETE SAVER ZAMST®

コーチ・レフェリーシンポジウム

《鄭亨均氏（前・韓国女子代表チーム監督）を迎えて》

広島で開催！
7月26日(日)～28日(火)の3日間
受講料5,000円
(宿泊費、交通費別)

主催・日本ハンドボール協会
後援・ZAMST アバンティ株式会社
協賛・株式会社スポーツイベント
協力・広島県ハンドボール協会

98年度のコーチ・レフェリーシンポジウムは、ザムスト（アバンティ株式会社）の後援を得て、7月26日(日)から28日(火)までの3日間、広島で行ないます。コーチ部門の講師はオリンピック、世界選手権で韓国女子に金メダルをもたらした鄭亨均氏（韓国体育大学教授）。アジアの隣国が世界を制した要因と勝利への方法論を10時間の講習でたっぷりと披露していただきます。受講ご希望の方はお早めにお申し込みください。



鄭　亨均氏

韓国体育大学教授。43才。バルセロナ・オリンピック金メダル（92年）、95年世界女子選手権金メダル、アトランタ・オリンピック銀メダル（96年）の3大会監督、このほか85年世界女子ジュニア選手権銀メダル、84年ロサンゼルス・オリンピック銀メダルのコーチなど韓国のメダル請負人ともいわれる。オフェンス、ディフェンスとも卓越した理論を持ち、ヨーロッパ勢の弱点を知りつくした采配に定評がある。

現在、国際ハンドボール連盟の指導普及委員会に属し、世界各国のシンポジウムに招かれ、指導者（コーチ、トレーナー）講習に飛び回っている。

ザムスト「コーチ・レフェリーシンポジウム」

	7月26日（日）	7月27日（月）	7月28日（火）
午前	10時開講 ●講習２時間 （広島市・東区スポーツセンター）	●講習２時間 （広島市・東区スポーツセンター）	●講習２時間 （広島県立体育館）
午後	●試合観戦 広島国際２試合 （広島市・東区スポーツセンター）	●スポーツ医学に関して１時間 ●講習２時間 （東区スポーツセンター）	●講習２時間 （広島県立体育館） 16時閉講
夕食後	●レフェリー講習 ２時間	●レフェリー講習 １時間30分 ●懇親会	

（注）講習時間は目安で、変更されることがあります。

- ●受講資格／特になし（ただし大学生以上）
- ●講習費／5,000円（宿泊費、交通費別、ただし26日の観戦費用は含む）
- ●申し込み締め切り／６月末日（お申し込みが多数の場合はお断りすることがありますので、お早めにお申し込みください)

●この講習会は公認コーチの義務講習対象となります。

●お申し込み書をＦＡＸまたは郵送にてお送りします。必要事項をご記入のうえ、ご返送ください。

●宿泊の斡旋も行います。前日泊（25日）も含め、申し込み書の該当欄にご記入ください。

●鄭亨均氏を囲んでの懇親会を27日夜に予定しています。ただし、懇親会費用（4,000円）は別途必要です。懇親会参加ご希望の方は申し込み書該当欄にご記入のうえ、講習費と合わせてお支払いください（お支払いは当日、受付にてお願いいたします)。

●お申し込み　（財）日本ハンドボール協会（☎03－3481－2361）
●お問い合せ　（株）スポーツイベント（☎03－3294－5231・山本）

平成10年度第1回ハンドボール研究集会要項

【テーマ】
「ボール運動教材としてのハンドボール」

【趣旨】
昨今、児童や生徒の体力・運動能力の低下が指摘されているが、教材としてのハンドボールは、子どもたちの発育・発達を促すのに適している。加えて、他のボール運動より、教材づくりや戦術学習が容易である。また、小学1年生から6年生までの子どもたちにとって楽しいボールゲームであり、生涯スポーツへの導入を容易にする。本研究集会では、このようなハンドボールの魅力や特性に対して認識を深めると同時に、子どもたちの発育・発達に見合ったハンドボールの授業づくりについて研修する。

【主催】
（財）日本ハンドボール協会

【後援】
愛知県教育委員会　名古屋市教育委員会

【主管】
愛知県ハンドボール協会

【会期】
平成10年8月19日(水)・20日(木)

【日程】
8月19日(水)
受　　付　12時00分～12時30分
開 会 式　12時30分～12時50分
研究発表　12時50分～14時00分
実技研修　14時15分～15時45分
講　　演　16時00分～17時00分
演題「小学校体育の新しい方向とボール運動」
演者・島根大学教授　杉山重利氏
8月20日(木)
授業提案　9時30分～11時00分
講　　義　11時00分～12時00分
講師・大阪教育大学教授　土井秀和氏
閉 会 式　12時00分～12時15分

【会場】
名古屋市千種スポーツセンター
〒464-0803　名古屋市千種区田代町字瓶杁108-1
（地下鉄東山線「星ケ丘」2番出口、「東山公園」2番出口、それぞれ下車徒歩5分）
TEL(052)782-0700　FAX(052)782-6700

【事務局】
〒010-8502　秋田市手形学園町1－1
秋田大学教育文化学部スポーツ・健康教育講座
佐藤　靖　気付
TEL(018)889-2577　FAX(018)889-2577
E-mail:yasushi@ipc.akita-U.ac.jp

【参加申込】
別紙申込用紙にご記入の上、事務局までご返送下さい。
(1) 参加資格：特に問いません。
(2) 参 加 費：3,000円（資料代、および保険料込み）（当日受付にて徴収いたします。）
(3) 締切日：平成10年7月27日(月)

【発表申込】
研究集会のテーマに関係する研究を募集します。発表を希望される方は、別紙申込用紙に必要事項をご記入の上、事務局までご返送下さい。
(1) 口頭発表・質疑時間：発表時間は、質疑応答時間を含め、一演題につき20分です。発表時間は演題数により変更することもあります。
(2) 発表にはスライド、OHPまたは資料を使うことができます。資料を配布される方は、150部程度ご用意下さい。
(3) 締切日：平成10年7月27日(月)

【宿泊】
下記のホテルを予約しておきますので、希望者は各自でお申し込み下さい。申し込みの際には「ハンドボール研究集会に参加」とお申し出下さい。
〒450-0002　名古屋市中村区名駅3-14-1
駅前モンブランホテル（一泊朝食付8,000円）
TEL(052)541-1121　FAX(052)541-1140

6月の行事予定

6月26日〜7月6日　第3回女子世界学生選手権大会（ポーランド）

6月13日　常務理事会・全国理事会
27日　評議員会

求職情報

私は日本におけるハンドボールの発展に貢献したいと思っている国際経験豊かな優れた指導力を持っているロシア人トレーナーです。

1982年、私の所属していた陸軍スポーツクラブ（UCKA）はソ連選抜チームとの試合で勝利をおさめ、全国制覇を成し遂げました。ヨーロッパ選手権出場の経験があります。

ノルウェーでは7年間トレーナーとして指導にあたっています。当初は弱かったチームも、私の下で成長しました。2〜3年あれば最強のチームに育て上げることができます。ノルウェーに来る前は1990年から91年にかけての1年間、ハンガリーで教えていました。

ハンドボールについてはすべて私にお任せください。

Orlov A.Y.

名前　Mr. Saeed Jasim Mohamed Jowher
国籍　バーレーン
生年月日　1972年1月26日
プロフィール　彼は昨年までサウジアラビアでプレーし、現在はカタールにてプレーしていますが、本人は更に自分の能力をアップ（Improve）したいとのことで、日本ハンドボールリーグでプレーすることを希望しています。

彼の主な経歴は

- Scorer of Asia 1991（in Japan）
- Best Player of Asia 1995（in Kuwait）
- Best Player of Arab 1996（in Jordan）
  Best Player of Arab 1997（in Dubai）

CONTENTS　6月号

柔らかな感触で、最適なバウンド！

new



新発売

new



PKCH3-AD DX
5,500円



new

PKCH2-AD DX
5,400円

アデランテ　前進

PKCH1-ADJ
3,600円





手縫い・国際公認球

PKCH3-AD
4,600円



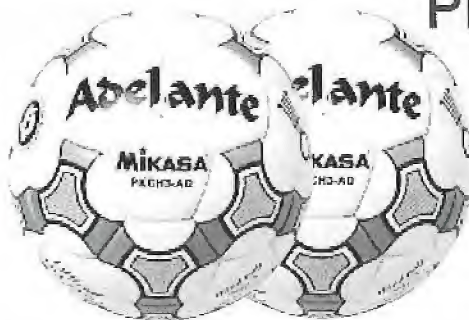
PKCH2-AD
4,500円





PKCH3-ADR
2,800円

PKCH2-ADR
2,700円



MIKASA®
明星ゴム工業株式会社

(財)日本ハンドボール協会編
『ハンドボール』第三八六号
昭和[illegible]年六月七日 第三種郵便物認可
平成十年五月二十六日印刷
平成十年六月一日発行
東京都渋谷区神南一－一－一
電話 代表 三四八一－二三六一
振替 〇〇一二〇－七－一〇二九三
編集兼発行人 市原則之
価格は登録金に含む